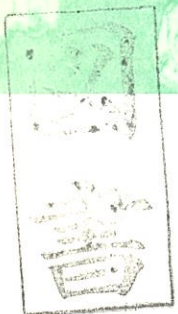
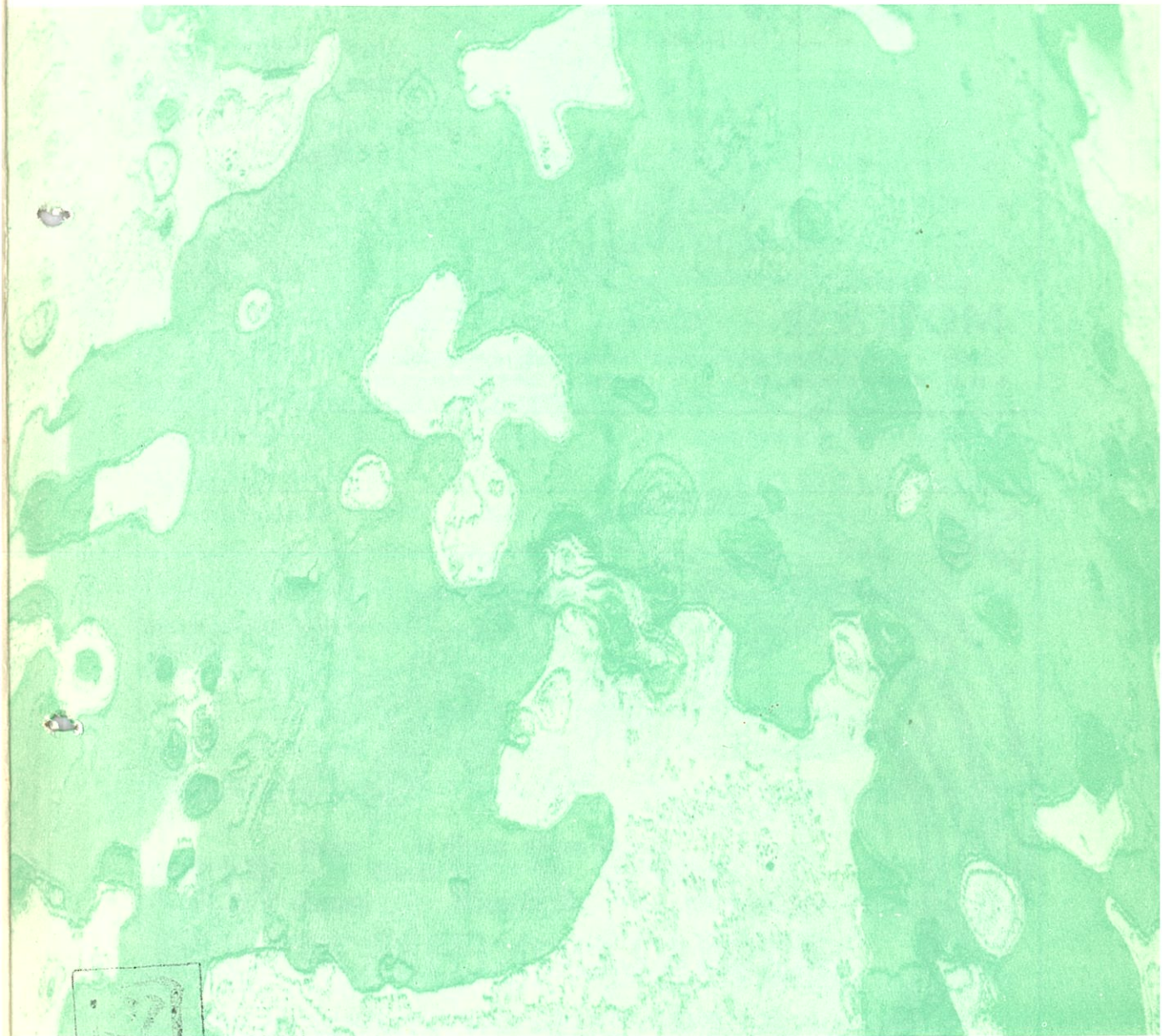


植調

第9卷第11号



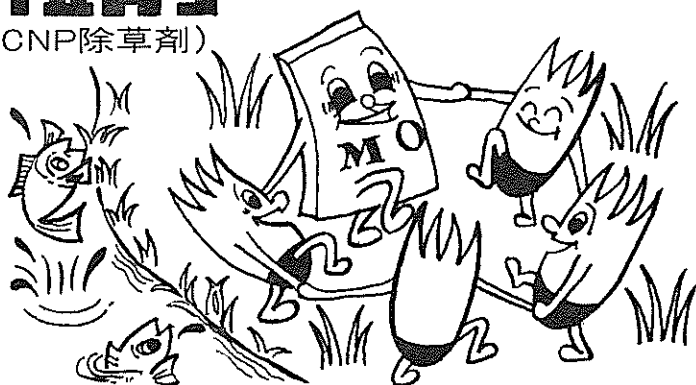
財団法人 日本植物調節剤研究協会編

安全でよく効く!

——水田除草剤——

MO粒剤

(CNP除草剤)



MO普及会

取扱会社 クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学、三井東圧農薬
事務局 東京都千代田区霞が関3-2-5 (霞が関ビル) 三井東圧化学株式会社内



稚苗移植栽培が急速に増加するにつれ、抑草期間が長く、しかも安全な除草剤への要求は、ますます強くなっています。エックスゴーニ粒剤は、これらの要求にピッタリの除草剤です。

田植前後に

エックスゴーニ粒剤

■頼れる水田除草剤■

代かき後7日以内
にお使いください。

エックスゴーニ協議会



石原産業株式会社
〒550 大阪市西区江戸堀上通1-11-11



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋1-2-5

資料請求券
植 調
エックスゴーニ

積 雪

西高東低の前線の流れは、白一色の雪国を創り出して行く。巨大な自然のエネルギーが創り出した日本海の冬である。萬象が沈黙すると言われる。この積雪の下にも、しばし日本の四季の胎動がある。

農産物を供給する周年栽培や冷蔵の技術の進歩から、四季感が失われたとも言われる。春花を賞で、夏を楽しみ、秋に詩情を抱き、冬に団楽する歳事記の季節は失われてはいない。また、積雪下の胎動から始まった四季の植物環にも変わりは見られない。稲の生育も、樹木の年輪も、季節の順応を示している。食生活の一部の素材が周年的に供給されるからと言って四季感が失われるのではなくて、むしろ豊かな素材で四季感を楽しく作る工夫が望ましい。

化学物質の有効利用を否定するような考えが、単に郷愁的な自然保護や、化学の盲目的な懷疑からであってはならない。しかし、環境の破壊を是認するものではなく、そこに新しい生命の循環と自然の誕生を見い出す努力を望まれている。

除草剤の利用も、雑草、作物、環境への作用を、偏見への回答も含めて、厳しく究明されるのが研究者の責任であろう。

水は作物を育てるとともに、除草剤の有効利用のための要素でもある。積雪は巨大な貯水池であり、貯えられた水は豊饒な農産のための糧である。水をどのように活用し制御するかも、また技術者に課せられた古く新しい問題でもあることを、雪の暮らしのなかで探してみたい。

(日本植物調節剤研究協会北陸支部長 木根淵旨光)

目 次

(第9巻第11号)

ハチジョウナの生態と防除法について …	2
<農事試験場畑作部 中山兼徳>	
1. はし が き ……………	2
2. ハチジョウナの繁殖……………	2
3. ハチジョウナの防除法……………	4
4. む す び……………	7
昭和50年度水稲・畑作関係生育調節剤試験成績概要……………	8
<日本植物調節剤研究協会>	
昭和50年度水稲作関係除草剤試験成績概要……………	11
<日本植物調節剤研究協会>	
1. 供試除草剤の動向……………	11
2. 試験結果の概要……………	12
第1表 昭和50年度水稲作関係除草剤実用化判定表……………	14
第2表 昭和50年度水稲作関係実用化除草剤使用基準……………	16
昭和50年度畑作関係除草剤試験成績概要……………	35
<日本植物調節剤研究協会>	
I. 供試薬剤……………	35
II. 対象作物・薬剤別判定結果……………	35
III. 実用化判定薬剤使用基準……………	37
新登録除草剤一覧……………	39
<農林省農蚕園芸局植物防疫課>	
新除草・調節剤	
エースフェノン除草剤……………	44
モリネート・チオクロルメチル除草剤……………	44
植調協会だより……………	46

ハチジョウナの生態と防除法について

農林省農事試験場畑作物作業体系第1研究室長 中山兼徳

1. は し が き

ハチジョウナ（学名：Sonchus brachyotis DC.）（英名：Perennial sow thistle）は多年草で冬期間に地上部が枯れる半地中植物（H）である。

地下茎は横に長く伸び、分岐（ $R_2 \sim 3$ ）して地表から20 cm位の範囲に生育する。

生育型は萌芽後の生育初期が根出葉（ロゼット型）で7月以降に抽苔して、60 cm内外の地上茎を生じ、いわゆる部分ロゼット型（Pr）といわれる。

葉は互生し、無柄の広皮針形で辺縁に大小の歯があって、下面は白色である。8～9月頃地上茎は頂部分岐して、黄色の舌状花よりなる頭状花をつけ、果実には冠毛があって風で飛散する（ D_1 ）。

草丈が高く茎葉の繁茂量が大きいため、初期に放任すると雑草害の甚だしい宿根生雑草である。

北海道では貧乏草、カマドガエシなどと称され、語句どおり強い害草を意味している。

また、岩手ではカブクサと俗称され、由来ははっきりしないが、カブラの葉に似ているから、また、除草のときに茎葉を折ると乳汁がでて、手や服に付着すると黒変してかぶれたようになるからともいわれている。

ハチジョウナは元来、北日本における海岸線の路傍、雑地に生える雑草で、次第に南下、ま

たは内陸部へ侵入していった雑草といわれており、岩手県では北部沿岸ほど多いが、全県で被害草化しており、宮城県では沿岸の本吉地方と栗原地方北部に発生が多いことが1967年に報告されている。その後の南進の状況、畑地への侵入速度などについてはわからない面が多い。しかし関東以南における試験報告等に害草としての記載がまねなことからみて、南下程度は大きなものではないようにも考えられる。

ハチジョウナとはほぼ同地帯に発生分布を持つ、北方型のエゾノキツネアザミ（Canada thistle）については、外国における文献もあり、多くの知見が得られているがハチジョウナについての研究事例はきわめて少なく、生態上の基礎的な事柄についてもわからない面が多いのであるが、1964～66年の東北農試における研究事例、および1967年の宮城農試古川分場の試験結果をもとに、ハチジョウナの生態と防除法について若干の知見を述べる。

2. ハチジョウナの繁殖

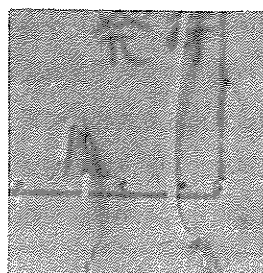
1) 種子繁殖

ハチジョウナの個体当たり種子生産量はきわめて多く、冠毛のある果実をつけ、結実後に遠方まで飛散する。

種子からの発生過程は明確でなく、飛散種子が多い割合には一般圃場で幼植物をあまり見かけないのは、他のキク科雑草と誤認することは

論外として、ハチジョウナの耕地における種子発芽率が劣るか、または発生しても耕地に対する定着率が悪いかのいずれかと考えられる。実験的データに乏しく断定はできないが、日陰の生育がきわめて貧弱なことからみて後者に属するように思われる。

なお、第1図は秋に採取した種子を催芽したものである。



果実をシャーレにとり、定温器（25℃）で催芽したもの。
（1日盛5mm）

図1 ハチジョウナの発芽（1966, 佐藤）

2) 栄養繁殖

(ア) 地下茎の切片の大きさと再生力

自然状態の萌芽は、盛岡では4月下旬に始まり、5月下旬には萌芽生育本数が最大となる。

更に、そのまま放置すると、密生し過ぎたところでは茎数はある程度減少してくる。

第1表の植付地下茎からの発生個体数は2次発生を含めたものであるが、地下茎の再生力は



8月2日に、地下茎（横走茎）を10cmの長さに切断して、それを5cmの深さに植え付けて、再生萌芽させ、肥培して9月20日に掘り取った株。

図2 地下茎からの再生（1966, 佐藤）

第1表 植付条件と再生萌芽の関係

（1964, 東北農試）

植付部位	植付方法	地下茎の長さ cm	個体当たり 萌芽茎数
地	埋 土 (5 cm)	1	0.86
		2	1.06
		3	1.40
		5	2.13
		10	2.53
		15	4.13
下 茎 (横 走 茎)	埋 土 (15 cm)	1	0.73
		2	0.73
		3	1.53
		5	1.86
		10	2.40
		15	3.53
	植 込 $\frac{1}{2}$ 挿し	5	1.06
		10	1.20
		15	1.40
	地 表 放 置	5	0.86
		10	1.00
		15	1.26
中 茎	埋 土 (5 cm)	1	0.60
		2	0.80
		3	1.06
		5	1.26
	埋 土 (15 cm)	1	0.60
		2	0.66
		3	0.13
		5	1.40
	葉 付 地中茎	5	1.06
		5	1.20
		10	1.71
		10	1.71

6月2日、自然発生の地下茎（太さ5～10mm）を切断して、框圃に植付け、10月16日、再生萌芽茎数を調査きわめて強く、しかもわずか1cmの切断茎でも萌芽して、秋期には同じ程度の長い地下茎をもつに至る。

なお、第2図は10cmの長さの地下茎の切片が50日後には2本の茎葉と3倍以上の地下茎を生ずることを示したものである。

また、大きい切片は1茎当たりの萌芽数が多く、萌芽後の地上葉も大きい、単位茎長当たりにすると、こまかく切断した方が萌芽個体数は多くなる。

このことから、従来の鋤、鍬から、地下茎を切断しやすいロータリー耕に変わったことによって、ハチジョウナの発生が多くなっているといわれるのもうなずけることである。

(イ) ハチジョウナの部位と萌芽力の差

細部については不明であるが、萌芽数は地下の横走茎がもっとも多く、地中茎(横走茎と地上茎の間の部分)の萌芽力は横走茎の $\frac{2}{3}$ 程度で、地上茎も根際部は地中茎と同様の再生力が認められている。

(ウ) 埋土の深さと再生の関係

主として埋土の深さが再生力に及ぼす影響を調べたのが第2表で、この結果から、また第1表の東北農試の調査でも、深くなるにつれて萌芽数は減少するが、深さが10cmまでは再生力に対する影響は小さく、30cm以上にならないと極端な減り方を示さないようである。

第2表 植付深度と発生本数
(1967, 古川分場)

植付深度 (cm)	発生始期 (月・日)	*発生本数 (本)
5	5・1	20
10	9	17
20	11	15
30	25	7

* 4月7日に、地下茎を4~5cmに切断して切片を1区20個体を植付け。

また、地表放置によっても若干萌芽数が減るものの再生を抑えるまでに至らない。このことからみても、ハチジョウナは越冬直前は別として、単なる反転耕だけでは再生を抑えることはできない。

(エ) 地下茎の越冬と再生萌芽

1975年の観察結果のみの考察であるが、ハチジョウナは12月に地上茎は完全に枯葉し、地面が凍上し始めると地中茎は腐死してくる。

地下茎(横走茎)の約6割は生き残って翌春に再生萌芽がみられた。

(オ) 環境条件が萌芽生育に及ぼす影響

盛岡におけるハチジョウナの萌芽は4月下旬から始まるが、まず浅い地下茎から萌芽を始め、漸次深いまたは細い地下茎が萌芽してくる。萌芽時期と地温の推移から推察すると平均地温で15°C前後で萌芽を始めるものと考えられる。

土壌条件と萌芽の関係は水中では殆んど発芽伸長せず、通気が良い程発芽率良く、その後の生育は土壌水分が飽和水量の60%程度で最も生育が良く、それより多くても、少ない場合も生育が劣り、特に乾燥に弱いことが報じられている。

また、寒冷沙等で日射を制限すると地上部は細く伸長するが、茎葉の乾物重は著しく低下する。

岩手県の山間部において、ハチジョウナの株に籾殻を被覆することによって再生を防いでいるという事例を聞いたことがあるが、日射量制限に弱い、陽性の雑草だということと関連して興味深い除草法で黒フィルムなどによるマルチ栽培の有効性を示唆していると思われる。

肥沃度と発生との関係については研究事例は少ないが、自生地の観察によると、砂地やどんな瘠薄な土壌でも空地さえあれば発生しているが、繁茂量は肥沃な土壌で大きく、特に窒素濃度の高い程、増殖力が旺盛なようである。

3. ハチジョウナの防除法

1) 各種除草剤によるハチジョウナの茎葉処理

各除草剤のハチジョウナに対する防除効果をみたのが第3表で、対象雑草が移植個体であったことなど若干自然条件と異なるが、いずれの薬剤も高い効果を示した。

第3表 ハチジョウナに対する各種除草剤の効果比較

(1966, 佐藤・高林)

試 験 区	m ² 当たり 製 品 量 (mg)	障害度 (9月26日)			生存地 下茎の 再生率 (%)	生存株 地下茎 の総延 長 cm/m ²	残 効	
		地 上 部	地下部	枯 死 (%)	障害甚 (%)	生 存 株 (%)	大 豆	症 状 程 度
2,4-D	186	95	0	9	50	84	抑 制	十
"	372	96	2	9	20	124	"	十
A T A	333	95	3	11	17	214	頂部異常	卅
"	666	100	0	11	28-0	124	白 化	IV
MDBA	175	100	0	15	0	100	不発芽	V
"	350	97	3	3	0	20	"	V
NaCl O ₃	10,000	100	0	7	0	66	褐 変	IV
無 処 理	—	—	—	100	100	38-2	—	—

自然発生のハチジョウナを8月5日、コンクリート框に移植し、葉数が平均8葉、草丈16cmと移植株の生育が旺盛となった8月26日に除草剤を処理した。

9月29日地下茎を掘取り、25°Cの定温器に入れて萌芽させて再生力を調査した。また、除草剤の残効調査は9月2日に各処理区にトウモロコシと大豆を播種。

それぞれについてみると、

(ア) 2,4-Dは処理後直ちに茎葉がわん曲し、アントシアンを生じ、徐々に地上部は萎凋、大半が褐変枯死に至ったが、若干障害株(茎が膨化肥大し、地下茎がこぶ状となり、枯葉の多い株)が残った。

高濃度区(成分でa当たり30g)では、残存地下茎は殆んど再生能力を失っていた。

(イ) A T A処理は芯葉がきわめて鮮やかな紅色を呈し、次第に茎葉はクロロシスを生じて徐々に枯死した。地上部は枯死しても地下部は残るものもあったが、高濃度(成分a当たり60g)では再生葉は異常を呈して殆んど伸長しなかった。

(ウ) M D B A処理は特異な枯れ方で、若干ねん曲し、一様に褐変して、葉は乾燥状態で枯死し、地下茎の生存は認められたが、殆んど再生しなかった。

(エ) NaCl O₃処理はきわめてすみやかにネクロシスをおこして殆んど枯死し、地下茎からの再生も全くみられなかった。

2) ハチジョウナに対する2,4-Dの処理方法

ハチジョウナの生育時期と2,4-D処理の関係をみたのが第4表で、この試験は前年6月20日に、自然発生のハチジョウナを移植し、ほぼ自然状態にちかくなった1965年6月11日から処理を開始したものである。

なお、試験圃場の一般的な発生生育経過は4月下旬より

萌芽し、5月中旬が萌芽最盛期で、6月上旬には全面を覆い(m²当たり400本前後)、その後萌芽数は漸減した。

7月以降は抽苔し、地上茎は密生伸長して一部弱小個体は庇陰により消失するものもあって生育個体数は若干減少していった。

着蕾は7月10日、開花始めは7月28日、種子飛散は8月24日から始まった。

着蕾茎の茎長は60~70cmで、開花茎は9月上旬から、無着蕾の地上部茎葉は10月下旬に自然に枯れ始めた。

2,4-Dの処理効果であるが、茎葉がねん曲し、アントシアンを生じ、漸次枯死したが、第4-1表にみるように、いずれの区も最終の地上基本数は観察上の薬効からみて予想以上に多かった。これは残存個体の地際部が膨化肥大して、その中基部より異常発芽が行われたためである。

第4-1表 2,4-Dの処理方法と残存雑草量

(1966, 佐藤・高林)

供試条件				生育本数の推移				掘取時(9月29日) の乾物重	
番 号	1回の 処理量 (成分) (g/a)	処理 回数 (回)	処理 時期 (月)	(本/0.944m ²)				(g/0.944m ²)	
				6月11日	7月10日	8月10日	9月29日	地上部	地下部
1	15	1	6	402	233	207	155	1665	784
2	15	2	6.7	452	297	210	225	1148	576
3	15	3	6.78	426	227	224	203	1144	448
4	15	1	7	415	461	189	172	1363	566
5	30	1	7	400	377	170	87	853	254
6	15	1	8	365	358	272	198	1128	1133
7	30	1	8	363	308	259	201	800	919
8	無	処	理	443	421	378	339	2415	1966

第4-2表 2,4-Dの処理方法と地下茎の再生力

(1966, 佐藤・高林)

試 験 番 号	掘取時(9月29日) の地下茎総延長 (cm ² /m ²)	10 cm 切断茎の 平均発生萌芽数 (本/切片)	残存地下茎を10 cmに切断し た場合の最大発芽可能本数	
			萌芽数(本/m ²)	同左無処理比%
1	5722	0.80	458	39
2	4552	0.60	273	23
3	3122	0.20	62	5
4	5440	0.55	299	100
5	2467	0.25	62	25
6	9508	0.25	238	5
7	8080	0.25	204	20
8	8716	1.35	1177	17

葉量は高濃度で効果高く、処理時期別では地上部乾物重は6月>7月>8月の順で、遅い程少ない。これは落葉が多く、回復期間が短かったためと思われる。また地下部重は7月<6月<8月の順で、7月から8月にかけて地下茎がもっとも伸長する時期で、7月10日処理がそれを抑制したものと考えられる。

次に残存地下茎の量と地下茎の再生力の両面から効果をみたのが第4-2表で、再生力は着蕾期以後(7,8月)の2,4-D処理で発芽力を低下させている。しかし、初期生育時の処理が地下茎の再生能まで作用しないのか、または作用しても時間を経てわずかず回復したものか

明らかでない。また、処理回数が多い程効果が高く、

1,2回目の茎葉散布が地下部を減少させ、3回目の高温時、すなわち開花結実期の散布が顕著に再生能を低下させたものと思われる。

以上のことから、地上部茎葉、地下部の茎根及びその再生能から総合的にみると、6,7,8月の各回ともa当たり15gの2,4-D処理がもっとも効果的で、また、時期の把握が多少むずかしいが、7月10日の30g茎葉処理が効果も高く、期待できる。

3) 地上部の刈取りによる防除法

前章と同様の区画圃場で第5表の供試条件のように、

6月11日から刈取りを行

ったが、刈取りによる機械的(生態的)防除はきわめてむずかしく、1回刈では1週間後に再萌芽し、無処理と同様の生育経過をたどり、2回の刈取りでも効果はきわめて小さく、翌年には完全に回復するものと思われ、6,7,8月の3回刈では地下茎を無処理の約20%まで減らして再生能も低下したが、翌年の再生を防ぐには3回程程度の刈取りではまだまだ不充分である。

4) 攪拌による防除効果

第5表に供試条件と試験結果の概要を記載したが、前章と同一区画圃場に供試し、試験開始時(6月11日)の生育量は草丈が15cm、主茎葉数は7葉、m²当たり生育本数は約400本、

第5表 地上部刈取りおよび攪拌埋土による除草効果

(1966, 佐藤・高林)

供 試 条 件				9月29日の生育 (0.944m ²) 本				再 生 能	
番 号	処 理 法	回 数 (回)	刈 取 期 日 (月/日)	地 上 部		地 下 部		m ² 当たり 萌芽可能 本数 (本)	同左 比率 (%)
				生育本 数 (本)	乾物重 (g)	乾物重 (g)	地下茎 総長 (cm)		
1	茎	1	6/11	247	1858	1286	6373	956	76
2	葉	1	7/10	350	2625	1450	9332	933	75
3	刈	1	8/10	358	1172	1619	9206	1059	85
4	刈	2	6/11, 7/10	264	2127	1180	7409	593	47
5	取 り	3	6/11, 7/10, 8/10	168	471	363	4518	271	22
6		無	処 場	273	3847	1902	9619	1250	100
7	攪	1	6/11	344	3037	1305	7894	1066	85
8	拌	2	6/11, 6/25	304	2934	739	5224	418	33
9	埋	3	6/11, 6/25, 8/10	204	420	347	2324	186	15
10	土	3	6/11, 6/25, 7/10	212	1048	428	3341	267	21
11	20 cm	4	6/11, 6/25, 7/10, 8/10	10	02	24	402	32	3

地上部乾物はm²当たり約50g, 地下茎総乾物重はm²当たり200g弱とかなりの量であった。

攪拌は20cmの深さに、茎葉ができるだけ地上にあらわれないようにスコップで反転攪拌したのであるが、1～2回の攪拌では殆んど効果が認めがたく、3回処理で地上部、地下部とも減少したが、充分な効果でなく、4回の攪拌ではほぼ期待にちかい効果が得られた。

しかし、完全に防除するには7月10日と8月10日の間で、もう1回の攪拌が必要と考えられる。

4. む す び

ハチジョウナは種子発芽と多発する地下茎萌芽の繁殖機構ともからんで、ロータリー耕の普

及、手取除草の排除などから近年増加が目立ち、東北の畑作においては最も重要な害草の一つとなっており、これから被害が大きくなるとともに、徐々に南進するものと考えられる。

ハチジョウナの防除はきわめて困難で、2,4-D, A T A, NaCl O₃, M D B A など薬剤防除も可能なことがわかっ

たが、作物に対する薬害から、いずれも局部処理の方法を取らねばならない。したがって、ハチジョウナの防除は発生当初に駆除することが肝要となる。

また、多回数の刈取り、4回以上の反転攪拌などの防除も可能性はあるが、労力の面できわめてむずかしい。

今後は栽培的に被陰力の強い作物を作るとか、ある種の選択性除草剤の連用—例えばアトラジンに対するトウモロコシ、DCPAのイネのような選択性作物を植えて、ハチジョウナの地上部のみを数回にわたって処理するとか、黒マルチその他の遮光様式などによる、栽培的に可能な除草法の開発に期待したいところである。

Weed List in Asian-Pacific Area

財団法人日本植物調節剤研究協会編
植調編集印刷事務所(全国農村教育協会内)発行

各国における雑草の呼称名を、学名と対照した雑草名彙。日本名、英名、ハワイ名、インドネシア名、中国名、台湾名、ソビエト名、韓国名を収録。

A4判 80頁 定価 2,000円(送料別)

昭和50年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和50年度水稻・畑作関係生育調節剤試験の成績検討会は、昭和50年12月16日、農林年金会館（東京）で開催された。

本年度は、水稻関係14薬剤、畑作関係7薬剤、その他1薬剤が供試されたが、判定結果を示すと、次表のとおりである。

昭和50年度水稻・畑作関係生育調節剤審査判定および使用基準

A. 水稻関係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) オキシベロン液	・ インドール酪酸 0.4 %	・ 稚苗の発根促進 ・ 健苗育成の活着促進	実, 継	・ 播種後10日500倍液を育苗箱当り500ccを灌注する。 ・ タチガレン処理を併用する。	
2) KC-481液	・ ニコチン酸アミド 10 %	・ 発根促進 ・ 健苗育成 ・ 活着促進	・ 寒地 実 ・ 他地域 継	・ 播種時10～20 ml/箱散布する。 ・ タチガレン処理を併用する。	
3) ベンジルアデニン液	・ N ⁶ -ベンジルアミノ プリン 3 %	・ 老化防止 ・ 活着促進	継		・ 実用化の検討をさらに進める。
4) RNA粉	・ 酵母リボ核酸 95 %以上	・ 登熟促進	実, 継	・ 最高分けつ期および穂揃期にa当たり60gを茎葉に散布する。 ・ 展着剤を加用すること。	
5) エスレル液	・ 2-クロロ-エチル -フォスフォニック アシド 10 %	・ 倒伏防止	継		・ 散布時期・散布量について更に検討する。
6) JG-01液	・ 椎茸菌糸体抽出エキ ス ・ 非水分 700mg/100ml	・ 生長促進	継		・ 作用機作の検討をする。

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
7) UMP 粉	・ 5'-ウラシル酸ナトリウム 95% 以上	・ 登熟促進 ・ 不稔防止 ・ 収量増加	実, 継	・ 最高分けつ期に a 当たり 60 g を茎葉に散布する。 ・ 展着剤を加用すること。	・ 登熟期の気象条件との関係を検討する。
8) N-2000 水和	・ 9-ベンジルアデニン 1%	・ 転び型の倒伏防止	継		・ 倒伏防止についてさらに検討する。
9) RH-531 水溶	・ 3-カルボキシ-1-(P-クロロフェニル)4,6-ジメチル-2-ピリドン (Na 塩) 96%	・ 高密度播種条件下での苗質向上 ・ 徒長防止	実, 継	・ 15 葉期に 50~100ppm 水溶液を苗代 m ² 当たり 150 ml の割合で茎葉に噴霧する。 ・ 展着剤を必ず使用する。 ・ 処理 20 日以後に移植する。 ・ タチガレン処理を併用する。	
10) RH-103 水溶	・ 3-カルボキシ-1-(P-クロロフェニル)4,6-ジメチル-2-ピリドン (Na 塩) 43% ・ 2,4-ジクロロフェノキシアセティックアシッド 870%	・ 倒伏防止	実, 継	・ 出穂前 40~50 日 45g/a を茎葉に散布する。	・ 散布時期を出穂前 50 日, 45 日, 40 日として検討。
11) カルシウムペー オキサイド粒	・ CaO ₂ 54% 以上	・ 稲ワラすき込みによる活着不良防止, 根ぐされ防止	実, 継	・ 400~800 g/a を生わらと一箱にすき込む。	・ 適用条件の明確化。
12) カルシウムペー オキサイド粉	・ CaO ₂ 54% 以上	・ 機械播種のための剤の開発および播種法の検討。	実, 継	・ 粉衣量; 浸漬剤 100g に対し 30g を粉衣して播種する。 ・ 適用条件; 湛水直播。	・ 作業機との関係を更に検討する。
13) ブタクロール乳	・ 2-クロル-2', 6'-ジエチル N (ブトキシメチル) アセトアニリド 60.0%	・ ペーパーボット苗の根絡み防止	継?		・ 効果不明瞭。

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
14) ACN水和	・ 2-アミノ-3-クロル-1,4-ナフトキノ 90 %	・ ベーバーボット苗の根絡み防止	実, 継	・ 寒冷紗に 1 ~ 2 g/m ² を予め吸着させベーバーボットの下敷とする。	・ 最適値について地域別に検討。
15) RH-315 水和	・ 3,5-ジクロル-N-(1,1ジメチル-2-プロピニル)ベンズアミド 500 %	・ ベーバーボット苗の根絡み防止。	継?		・ 効果不明瞭。

B. 畑 作 関 係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) 31603-S 水和	・ 2-ベンズイミドイル-3-ヒドロキシ-1,4-ナフトキノ 90 %	(ばれいしょ対象) ・ 収量増加	継?		・ 効果不明瞭。
2) ポリイソブチレンオキサライド	フィルム	(落花生対象) ・ 光崩壊ポリマールチの実用性の検討。	継		・ DM-40 E を中心に更に検討。
3) KP-1100 乳	・ 未公開	(落花生対象) ・ 無駄花の開花を抑え増収をはかる。	継		・ 作用機作の検討。 ・ 効果再確認。
4) JG-01 液	・ 椎芽菌糸体抽出エキス 非水分 700mg/ml	(とうもろこし, 甘藷, 大豆, てん菜対象) ・ 収量増加。	継?		・ 作用性の検討。
5) ビーナイン水溶	・ N-(ジメチルアミノ)-スクシンアミド酸 80 %	(落花生対象) ・ 収量増加。	継		・ 散布時期との関係を検討。
6) カルシウムペー オキサライド粒	・ CaO ₂ 54 % 以上	(大豆, 小豆, 菜豆, ばれいしょ, 落花生対象) ・ 発芽促進および初期生育増進。	継		・ 過湿地対象に検討。

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
7) ジクワット液	・ジクワット・ジプロ マイド 30%	(大豆, 小豆, エンドウ対象) ・落葉促進 ・子実乾燥効果	・小豆 実, 継 ・大豆 (コンバイン) 中 止 ・エンドウ 中 止	収穫7日前に15~30cc/a を散布する。	・処理後のさやの成熟 過程と霜害との関係 を検討する。

C. そ の 他

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) SL-51	(成分未公開)	・イネおよびコ ムギの発芽に 及ぼす影響。 ・一時貯留時に おける水稻生 粒に及ぼす影 響。 ・球根ベゴニア の落花防止。 ・巨峰の脱粒防 止。	継		・初年目。

昭和50年度水稻作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和50年度水稻作関係除草剤の試験成績検討会は、昭和50年12月17日より3日間、東京農林年會館（東京）において開催された。ここにその結果の概要について紹介する。

1. 供試除草剤の動向

本年度委託総点数は863点で、これは前年

度の1,012点に較べて約15%の減である。内容的には従来の成苗移植栽培を主体とした試験から前年度に引き続き稚苗移植栽培対象の試験が増加し、成苗での試験92点に対し稚苗移植栽培では771点が試験された。全国的水稻栽培面積のうち、稚苗機械移植栽培の占める割合が61%と報告され、また、一部の県では80

％以上普及したとの報に接している現状では当然といえる。

つぎに、ここ数年問題となっている多年生雑草防除法の問題がある。それはウリカワ、オモダカ、ミズガヤツリ、ホタルイ、ヘラオモダカ、クログワイなどである。北海道、東北北部ではホタルイ、ヘラオモダカ、東北地域ではホタルイ、ミズガヤツリ、関東以西ではウリカワ、ミズガヤツリ防除が重要課題となっている。昭和49年11月の調査による水田多年生雑草の発生面積合計は210万haとなり、昭和47年調査の1.9倍である。BAS-3510混合剤による同時防除の検討と共に、田植前後の土壌処理剤との組み合わせ処理によって1年生雑草と多年生雑草のタイミングを合わせて、より防除効率を高める体系処理法も多くの茎葉兼土壌処理剤で検討された。

注目される新剤としては、本年は第2次適用性試験をはんの数点しか実施しなかったが、作用性、第1次適用性試験の段階で極めて高い効果が得られ、水稲にも安全性が高く期待されるものがあったことは今後の楽しみである。

そのほか、パイプダスター利用による農薬散布に関しては昭和50年度当初、防除機メーカー12社による散布均一性につき農業機械化研究所においてテストした結果、全製品がC.Vは17～45％の範囲におさまる結果となった。このように、散布機材および方法の向上により均一散布の可能性が確認された。連絡試験は7剤につき全国9場所で計28点について実施し、当会議で検討した。

作用特性試験は、稚苗移植栽培を対象に新規19薬剤について早期移植栽培条件、普通期移植栽培条件下でそれぞれ試験し、さらに土壌中の移動性、残効性程度についても試験を実施し

た。作用性試験、変動要因試験は作用性が22点、変動要因が9点あり、これらは国立研究機関を中心に実施された。また、本年度石垣試験地で行った基礎試験供試薬剤は27薬剤であった。

第一次適用性試験（大地域適用性試験）は成苗移植栽培対象として1薬剤、稚苗移植栽培対象として18薬剤につき全国7場所で試験したが、これについては既に植調第9巻第7号において報告済みである。

2. 試験結果の概要

本年度供試された薬剤の判定結果は、第1表の通りである。本年度供試薬剤総数122点のうち、95点が「実」、「実および継」の判定が得られた。これは78％に該当する。

昭和50年度水稲作関係除草剤試験供試薬剤名

A. 基礎試験（沖縄石垣島試験地）

NK-049粒、S-28粒、S-28・U-67粒、SW-751粒、X-52・SK-23（7+7％）粒、X-52・SK-23（7+5％）粒、NK-50乳、CH-753水和、B-275水和、B-289水和、NTN-90KM粒、HW-163粒、HW-163B粒、HW-163BM粒、HW-163M粒、HW-884粒、HW-884B粒、HW-884BM粒、HW-884M粒、NP-27A-1粒、NP-27A-3粒、NP-31A粒、NP-38A粒、MCP・BAS-Na(A)粒、MCP・BAS-Na(B)粒、MCP・BAS-3510粒

B. 作用特性試験

モリネートMT-101粒、MT-121粒、MT-122乳、B-3015・MK粒、MSW-1粒、S-28・SM粒、NH-710粒、HOK-05

・X粒, SW-751粒, SK-80・K粒, NTN-90KM粒, NTN-90粒, NK-50粒, NP-27A粒, HW-T₁粒, HW-T₂粒, HW-T₃粒, KH-195粒;

C. 作用性, 変動要因試験

CG-102粒, TH-63粒, B-3015・MK粒, MK-129水和, SW-751粒, Mon-358液, UEL-26水和, MCP・BAS粒, SL-501水和, SL-502水和, AM粒, CG-102C粒, TH-63粒, MT-B-3015⑩粒, BAS-3510粒, SW-751粒.

D. 第二次適用性試験

I 成苗移植栽培

I-1 土壤混和処理

G-315⑩乳, RH-2915乳, RH-2915粒.

I-2 移植前後処理

MC-79粒.

I-3 移植後土壤処理

KH-191粒.

I-4 移植後茎葉兼土壤処理

B-3015・S・MCPB粒.

I-5 適用時期拡大

モリネートSM粒, BAS-3510液, (X-52→)S-28・AM粒, HOK-0.5粒(25%), HOK-0.6粒, NK-049・S粒, SMX一粒, MCP・BAS(Na)粒, 2.4-PA・BAS(Na)粒, 2.4-PA・BAS水和.

II 稚苗移植栽培

II-1 土壤混和処理

B-3015・K乳, G-315乳(大型機械散布), G-315⑩乳, RH-2915乳, RH-2915粒, B-3015乳, SL-041液.

II-2 移植前後処理

MT-120粒, MT-220粒, B-3015・

MK粒, MC-79粒(前処理のみ), MC-79粒(前後処理), S-28粒, X-52(7%)・SK-23(7%)粒, X-52(7%)・SK-23(5%)粒, X-52水和, NK-049・S粒, ブタクロール粒(前後処理), ブタクロール粒(前処理のみ), ブタクロール乳, B-3015・K粒, MTS-1粒, BP-10粒,

II-3 移植後土壤処理

モリネート・K・PHC粒, モリネート・K粒, MT-B-3015⑩, MT-B-3015・MCPB粒, MC-79粒, SW-751粒, SW-752粒, B-3015粒, KH-191粒, BP-11粒.

II-4 移植後茎葉兼土壤処理

CG-102粒, TH-63粒(ホタルイ対象), TH-63粒(ウリカワ対象), TH-63粒(漏水田における水管理等の検討), TH-63粒(効果・被害の年次変動), モリネートSM粒, モリネート粒, モリネートKM粒, N-301粒, S-28・SM粒, S-28・S粒, HOK-0.5粒(1.5%), SMX粒, TH-67粒, TH-63(Na)粒, B-3015・S・BAS粒, B-3015・BAS・MCPB粒, B-3015・S・MCPB粒, HW-T₁粒, MON-358粒, TH-63・C粒, CG-102・C粒, KH-195粒, シメトリン・MCPB粒(25%), シメトリン・MCPB粒(3.5%),

II-5 適用時期拡大

CG-102粒(ホタルイ対象), CG-102粒(ミズガヤツリ対象), CG-102粒, TH-63粒, モリネートSM粒, モリネートKM粒, MCP・BAS液, MCP・BAS水和, S-28・S粒, BAS-3510粒, BAS-3510液, (X-52→)AM粒, (X-52→)S-28・AM粒, HOK-0.5粒(2.5%), HOK-0.5粒(1.5%)(寒地対象), HOK-0.5粒(15%)

(ヘラオモダカ対象), HOK-05粒(1.5%)
(ウリカワ, セリ対象), HOK-06粒, SW-
752粒, NK-049粒, SMX粒, SMX(Na)
粒, シメトリン・MCPB 2.5粒, シメトリン・M
CPB 3.5粒, TH-67粒, TH-63(Na)粒,
B-3015・S・MCPB粒, KH-191粒,
モリネートM粒, MCP・BAS液, BAS-3510
水和.

Ⅲ-1 湛水直播

MK-129水和, B-3015・K粒.

Ⅲ-2 乾田直播

CG-102粒, モリネートSM粒, G-315

⑩乳, S-28乳, BAS-3510液, NTN-
80・K水和, MON-39液, B-3015・P
粒.

Ⅳ 畦 畔

MON-39液, バラコート+起泡剤, SL-
501水和, SL-502水和.

Ⅴ 耕 起 前

MON-39液.

Ⅵ 休 耕 田

VEL-26水和.

第1表 昭和50年度水稻作関係除草剤実用化判定表

	実	実および継	継	継?	中 止
I-1 成苗 土壌混和 処理		G-315⑩乳, RH- 2915乳, RH-2915 粒.			
I-2 移植前後 土壌処理		MC-79粒.			
I-3 移植後 土壌処理		KH-191粒.			
I-4 茎葉兼土 壌処理		B-3015・S・MCPB 粒.			
I-5 適用時期 拡 大	モリネートSM粒, NK-049S粒.	BAS-3510(Na)液, S-28AM粒, HOK- 05A粒, HOK-06 粒, SMX粒, MCP ・BAS⑩(Na)粒, 2,4-PA・BAS⑩ (Na)粒, BAS-3510 水和, 2,4-PA・BAS 水和.			
Ⅱ-1 土壌混和 処 理		B-3015・K乳, G- 315(大型機械散布)	RH-2915乳, RH- 2915粒, SL-041液.		

	実	実 お よ び 継	継	継 ？	中 止
(つづき)		乳, G-315㊦乳, B-3015乳.			
II-2 移植前後 土壌処理	NK-049・S粒, プ タクロール粒, B- 3015・K粒.	B-3015・MK粒, MC -79粒, S-28粒, X -52・SK-23粒, X -52・SK-23㊦粒, X-52水和, プタクロ ール粒, MTS-1粒.	MT-120粒, MT- 220粒, プタクロール 乳, BP-10粒.		
II-3 移植後 土壌処理		モリネート・K・PH C粒, モリネート・K 粒, MT-B-3015 ㊦粒, MT-B-3015・ MCPB粒, MC-79 粒, B-3015粒, モ リネートM粒.	SW-751粒, SW- 752粒, KH-191粒, BP-11粒.		
II-4 茎葉兼土 壌処理	CG-102粒, モリネ ートKM粒, B-3015 ・S・BAS粒.	TH-63粒, モリネ ートSM粒, モリネート 粒, N-301粒, S- 28・S粒, SMX粒, TH-67粒, TH-63 (Na)粒, B-3015・ BAS・MCPB粒, B-3015・S・MCPB 粒, TH-63C粒, CG -102C粒, KH-195 粒, シメトリン・MC PB35粒.	S-28SM粒, HOK -05B粒, HW-T, 粒, MON-358粒, シメトリンMCPB 25粒.		
II-5 適用時期 拡 大	MCP・BAS水和, HOK-05A粒, シメ トリンMCPB25粒.	CG-102粒, TH-63 粒, モリネートSM粒, モリネートKM粒, M CP・BAS液, S- 28S粒, BAS-3510 粒, BAS-3510水和, BAS-3510液, (X -52)→AM粒, (X- 52)→S-28AM粒, HOK-05B粒, HOK -06粒, SMX粒,	HOK-05B粒, SW- 752粒, NK-049粒, KH-191粒.		

	実	実および継	継	継 ?	中 止
(つづき)		SMX (Na) 粒 シメトリン MCPB 35 粒, TH-67 粒, TH-63 (Na) 粒, B-3015・S・MCPB 粒,			
III-1 湛水直播		B-3015・K 粒,	MK-129 水和,		
III-2 乾田直播		CG-102 粒, モリネート SM 粒, BAS-3510 液, MON-39 液, B-3015 P 粒,	G-315㊥乳, S-28 乳, NTN-80 K 水和,		
IV 畦 畔		MON-39 液, バラコート + 起泡剤液,	SL-501 水和, SL-502 水和,		
V 耕 起 前		MON-39 液,			
VI 休 耕 田			VEL-26 水和,		

第 2 表 昭和 50 年度水稲作関係実用化除草剤使用基準一覧表

薬 剤 名	処理法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
I I 成苗・土壌混和処理	G-315㊥乳	土壌混和	全域の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバイ,	植代直前直後 (-3~-1)	㊥ ml/a 30	砂壤土~埴土(極端な漏水田はさける),	1) 混和時の水深3~5cm 2) 混和深2~3cm 3) 吸着の悪い土壌(砂壤土, 腐植含量の少ない土壌)では水の動きの少ない場合は薬害の発生の危険があるので十分注意する. 4) 均一散布に留意する.
	RH-2915乳	土壌混和	暖地の普通期	一年生雑草, マツバイ,	植代前(-4)	㊥ ml/a 125	埴土 (1.5cm/日以下)	
	RH-2915粒	土壌混和	全域の普通期	一年生雑草, マツバイ,	植代直前 (-6~-3)	㊥ g/a 300	埴土~埴土	

薬 剤 名		処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
	RH-2915 (つづき)		寒地, 寒冷地, 温暖地 東部の普通期,	一年生雑草, マツバイ.	荒代直前 (-6~-4)	⊕ g/a 300~ 400	(15cm/日 以下)	
I 2 成 苗 ・ 移 植 前 後	MC-79 粒	土	寒 地	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	- 3 ~ + 3 (ノビエ] L ま で) ホタルイ : 発生 前 ~ 始期 ヘラオモダカ : 発生始	⊕ g/a 300	砂礫土 ~ 埴土 (2 cm / 日 以下)	
		壤	寒冷地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期.	一年生雑草, マツバイ.				
I 3 成 苗 ・ 移 植 後 土 壌	KH-191粒	土 壌	寒冷地, 温暖地 の普通期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ.	+4 ~ ノビエ 15 L ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ } 発生始	⊕ g/a 300~ 400	埴土 ~ 埴土 (2 cm / 日 以下)	処理後に発生するウリカワには劣る場合があるので注意する.
I 4 成 苗 ・ 茎 葉 兼 土 壌	B-3015・ S・MCPB 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	+10 ~ ノビエ 3 L ホタルイ : 発生 始 ~ 2 L	⊕ g/a 300~ 400	埴土 ~ 埴土 (2 cm / 日 以下)	
			寒冷地	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ, ヘラオモダカ.	ウリカワ : 発生 盛 ~ 5 L ヘラオモダカ : 発生始 ~ 4 L			
			温暖地東部 普通期, 早期.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ.	ミズガヤツリ : 発生始 ~ 3 L			
			温暖地西部 以西の普通期.	一年生雑草, マツバイ, ウリカワ.				
I 5	モリネット SM粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理した場合 +20 ~ +30 (ノビエ 25 L まで) ホタルイ : 発生 始 ~ 5 L	⊕ g/a 300~ 400	砂礫土 ~ 埴土 (2 cm / 日 以下)	シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる.

薬 剤 名	処理法	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
I I 5	(つづき)			ヘラオモダカ： 発生始～4 L				
成 苗 適 用 時 期 拡 大	BAS-3510 (Na) 液	同	寒 地	一年生非イネ科, ホタルイ, ヘラ オモダカ,	一年生非イネ科 発生盛～前期 ウリカワ	⊕ ml/a 40～ 80 但し, 寒 地, 寒冷 地は 60～80	全 土 壤	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 落水茎葉散布する。 3) 散布はなるべく水稻 にかからないように注 意する。 4) 処理後の灌水は48～ 72時間経過後に行う。
		上	寒冷地	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカ ワ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ,	ミズガヤツリ 発生盛～増殖 初期 ホタルイ			
			温暖地東部 の普通期, 早期	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカ ワ, ミズガヤツリ,	ヘラオモダカ 発生盛～前期			
			温暖地西部 以西の普通 期,	一年生非イネ科, ウリカワ, ミズ ガヤツリ,				
	S-28AM 粒	同	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ,	田植前後土壌処理 した場合	⊕ g/a 300	砂壌土～埴 土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 前処理剤としては1 年生雑草, マツバイ, ウリカワに有効な薬剤 を使用すること。
		上	寒冷地, 温 暖地東部の 普通期,	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ,	+15～+25 (ノビエ15Lまで) ウリカワ：発生 盛～5 L			
	HOK-05A 粒	同	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ヘラオ モダカ,	田植前後土壌処理 した場合	⊕ g/a 300～ 400	砂壌土～埴 土 (3cm/日 以下)	前処理剤との組み合わせ で使用する。
		上	寒冷地, 温 暖地東部の 普通期, 早 期,	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ,	(ノビエ2 Lま で, 但し, 寒地 は15 Lまで) ホタルイ 発生 ウリカワ 盛期 ヘラオモダカ： 発生始～4 L			
	HOK-06 粒	同	寒地, 寒冷 地	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカ ワ, ヘラオモダカ,	田植前後土壌処理 した場合	⊕ g/a 300～ 400	埴土～埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) セリは水没状態で効 果が高い。
		上	温暖地東部 の普通期, 早期,	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリ カワ,	一年生非イネ科： 生育期 ホタルイ：発生 盛～3 L			

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
I I 5 つづき		温暖地西部 以西の普通 期.	一年生非イネ科	ウリカワ：発生 盛～4L ミズガヤツリ： 発生揃～56L セリ：増殖初期 まで			
NK-049S 粒	土 壌	寒冷地以西 の普通期	一年生雑草，マ ツバイ.	－4～＋5 (ノビエ1Lまで)	⊕ g/a 300～ 400	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	抑草期間が短いので組み 合わせ処理の前処理剤と して使用する.
SMX粒	茎 葉 兼 土 壌	寒冷地 温暖地東部 の普通期 温暖地西部 の普通期	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ミズガヤツリ. 一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ウリカワ，ミズ ガヤツリ. 一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ウリカワ.	田植前後土壌処 理した場合 ＋15～＋25 (ノビエ2Lまで) ホタルイ：発生 盛～3L ウリカワ：発生 盛～揃期	⊕ g/a 300	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる.
MCP-BAS ・①(Na) 粒	同 上	寒 地 寒冷地 温暖地の普 通期 暖地の普通 期	一年生非イネ科， ホタルイ，ヘラ オモダカ. 一年生非イネ科， ホタルイ，ウリカ ワ，ミズガヤツリ. 一年生非イネ科， ホタルイ，ウリカ ワ，ミズガヤツリ. 一年生非イネ科， ウリカワ.	＋15～ (但し，寒地は 30～40日，寒冷 地は25～35日と する) 一年生非イネ科： 生育期 ホタルイ：4L まで ウリカワ：増殖 開始前 ヘラオモダカ： 6Lまで ミズガヤツリ： 6Lまで	⊕ g/a 300～ 400	砂壤土～埴 土 (15cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) 落水若しくは1～2 cmの浅水で使用する. 3) 処理後の灌水は48～ 72時間経過後行う. 4) 低温時の使用は葉害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる.
2,4-PA・ BAS① (Na) 粒	同 上	温暖地の普 通期	一年生非イネ科， ホタルイ，ウリ カワ.	＋15～ 一年生非イネ科： 生育期	⊕ g/a 300～ 400	砂壤土～埴 土 (15cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) 落水若しくは1～2

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
I 1 5	つづき	暖地の普通 期	一年生非イネ科, ウリカワ,	ホタルイ:発生 盛へ揃期 ウリカワ:発生 盛へ揃期			cmの浅水で使用する. 3) 処理後の灌水は48〜 72時間経過後行う.	
	BAS-3510 水和	茎 葉	暖地の普通 期	コウキヤガラ,	+ 30 前後	⊕ g/a 40〜60	全 土 壌	
	2,4-PA・ BAS 水和	茎 葉	暖地の普通 期	コウキヤガラ,	+ 30 前後	⊕ g/a 50〜60	全 土 壌	
II 1 1 稚 苗 ・ 土 壌 混 和	B-3015-K 乳	土 壌 混 和	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-6〜-1)	⊕ ml/a 50〜 75	砂壤土〜埴 土 (2cm/日 以下)	1) 混和時の水深は3〜 5cm. 2) 混和深2〜3cm.
		温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 および暖地 の早期,	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツリ,					
	G-315乳 (大型機) 機散布	同 上	全域の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-6〜-1)	⊕ ml/a 50 但し, 寒 地は 50〜67	砂壤土〜埴 土 (2cm/日 以下)	G-315乳剤に準ずる.
	G-315・⊕ 乳	同 上	寒地, 寒冷 地, 温暖地 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-3〜-1)	⊕ ml/a 30	砂壤土〜埴 土 (2cm/日 以下)	1) 混和時の水深3〜5cm, 2) 混和深2〜3cm, 3) 吸着の悪い土壌(砂 壤土, 腐植含量の少な い土壌)では水の動き の少ない場合は薬害の 発生の危険があるので 十分注意する. 4) 寒地で腐植含量の多 い地帯での使用は効果 が安定しないのでさけ る.
	B-3015乳	同 上	寒冷地, 温 暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-3〜-1)	⊕ ml/a 60〜 120	砂壤土〜埴 土 (2cm/日 以下)	1) 混和時の水深3〜5cm, 2) 混和深2〜3cm.

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 1	つづき	暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.		ml/a		
		暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ミズガ ヤツリ.		60~ 80		
II 2 稚 苗 ・ 移 植 前 後	B-3015・ MK粒	土 壌	寒冷地北部	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツリ.	-4~+5 (ノビエ1Lまで) ホタルイ ミズガヤツリ 発生始	④ g/a 300	壤土~埴土 (2cm/日 以下)
	MC-79粒	同 上	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ.	-7~-4 (ノビエ1Lまで)	④ g/a 300~	砂壤土~埴 土 (2cm/日 以下)
			寒冷地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期.	一年生雑草, マ ツバイ. ホタルイ ヘラオモダカ 発生前~始期	-3~+8 (ノビエ1Lまで)	400	
			寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.			
	S-28粒	同 上	温暖地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ.	+0~+6 (ノビエ1Lまで)	④ g/a 300	壤土~埴土 (1cm/日 以下)
	X-52・SK -23粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ.	-3, +3~+7 (ノビエ1Lまで)	④ g/a 300	壤土~埴土 (2cm/日 以下)
			寒冷地, 温 暖地東部の 普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ.	ホタルイ: 発生 前~始期		
			温暖地西部, 暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ.			
	X-52・SK -23 ④粒	同 上	温暖地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ.	-3, +3~+6 (ノビエ1Lまで)	④ g/a 300	壤土~埴土 (2cm/日 以下)
	X-52水和	同 上	温暖地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ.	移植当日 (±0)	④ g/a 30	砂壤土~埴 土 (2cm/日 以下) 1) 移植前後に滴下処理 する. 2) 水稻移植直後の場合

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
II 1 2	つつき						は水稻の茎葉にかからないようにする。	
NK-049・S粒	土 壌	寒冷地以西の普通期、温暖地東部および暖地の早期	一年生雑草、マツバイ、	- 3 ~ - 1 + 2 ~ + 3	⊕ g/a 300 ~ 400	砂壌土 ~ 壇土 (2 cm / 日 以下)	抑草期間が短いので組み合わせ処理の前処理剤として使用する。	
ブタクロール粒	同 上	寒 地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ	- 8 ~ + 3 ホタルイ：発生前 ~ 2 L ヘラオモダカ：発生前 ~ 始	⊕ g/a 300 ~ 200	壇土 ~ 壇土 (2 cm / 日 以下)	1) 浅植条件での使用はさける。 2) 200g/a 散布は多口ホース散布とする。	
		寒冷地以西の普通期、暖地の早期	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ	+ 3 ホタルイ：発生前 ~ 2 L ミズガヤツリ：発生前 ~ 3 L				
B-3015 K 粒	同 上	暖地の普通期、早期	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ	- 3 ~ + 0 ホタルイ 発生前 ミズガヤツリ	⊕ g/a 300	砂壌土 ~ 壇土 (2 cm / 日 以下)		
MTS-1粒	同 上	寒地 ~ 温暖地の普通期	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ	- 3 ~ + 7 (ノビエ1 Lまで)	⊕ g/a 300 ~ 400	壇土 ~ 壇土 (2 cm / 日 以下)		
		暖地の普通期	一年生雑草、マツバイ	ホタルイ：発生前 ~ 始				
II 3 稚 苗 ・ 移 植 後 土 壌	モリネット K・PHC粒	同 上	寒 地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ	⊕ g/a 300 ~ 400	砂壌土 ~ 壇土 (2 cm / 日 以下)	PHCが適用できる地帯で使用する。	
		寒冷地、温暖地東部の普通期、早期	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ	+ 5 ~ + 10 (ノビエ1 Lまで) ホタルイ：発生前 ~ 3 L ヘラオモダカ：発生前 ~ 2 L ミズガヤツリ：発生前 ~ 2 L				
	モリネット K粒	茎葉兼土壌	寒 地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ	+ 5 ~ ノビエ2.5 L ホタルイ：発生前 ~ 3 L	⊕ g/a 300 ~ 400	砂壌土 ~ 壇土 (2 cm / 日 以下)	コナギ多発田では早目 (2 L まで) に使用する。

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 1 3	つづき		寒冷地以西 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツリ, ヘラオモダカ: 発生始〜3L ミズガヤツリ: 発生始〜3L			
MT-B- 3015 ⑩ 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ヘラオモダカ.	+2〜ノビエ20L (但し, 寒地は +5〜ノビエ20L)	⊕ g/a 300〜 400	砂壌土〜埴 土 (2cm/日 以下)	
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ.	ホタルイ ヘラオモダカ ウリカワ ミズガヤツリ 発生始〜2L			
		温暖地, 暖 地の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.				
		温暖地東部 および暖地 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.				
MT-B- 3015・ MCPB 粒	同 上	温暖地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ.	+5〜ノビエ20L ホタルイ: 発生 始〜2L	⊕ g/a 300〜 400	埴土〜埴土 (1cm/日 以下)	1) 低温時の使用は薬害 発生危険性があるの で使用はさしひかえる.
		温暖地西部 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.	ウリカワ: 発生 始〜4L			
B-3015 粒	同 上	寒冷地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ.	-4〜+10 (ノビエ15Lまで)	⊕ g/a 300〜 400	砂壌土〜埴 土 (極端な溺 水田は除く)	
		寒冷地, 暖 地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.	+3〜ノビエ15L ホタルイ: 発生始			
モリネート M 粒	同 上	暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.	+0〜ノビエ15L ホタルイ: 発生始	⊕ g/a 300	埴土〜埴土 (1cm/日 以下)	
II 1 4	CG-102 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ. [但し, 寒地は +7〜20L, 寒 冷地は +10〜25L]	⊕ g/a 300	埴土〜埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる.

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II-4 稚 苗 ・ 茎 葉 兼 土 壌	つづき	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ヘラオ モダカ.	ヘラオモダカ: 発生始〜2L ホタルイ:発生 始〜2L			
		温暖地以西 の普通期, 暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ.				
	TH-63粒	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.	+8〜ノビエ25L 〔但し, 寒地は +7〜20L, 寒冷地は +10〜25L 温暖地西部以 西は +8〜30Lまで〕 ホタルイ:始〜 5L ヘラオモダカ: 始〜4L ウリカワ:盛〜 4.5L ミズガヤツリ: 盛〜4.6L	㊥ g/a 300	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる.
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ウリカワ, ミズガヤツリ.				
		温暖地以西 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.				
モリネート SM粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.	+15〜35L (但し, 寒地は) 25L ホタルイ:始〜5L ウリカワ:盛〜6L ヘラオモダカ: 始〜4L ミズガヤツリ: 始〜4L ヒメホタルイ: 10cm以内	㊥ g/a 300 〜400	砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる. 2) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる.
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ.				
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ, ヒメホタ ルイ.				
		温暖地西部 の普通期お よび暖地の 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズ ガヤツリ.				
モリネート 粒	同 上	寒冷地	ノビエ, ホタル イ.	+5〜ノビエ2L ホタルイ:発生 始〜2L	㊥ g/a 400 〜600	砂壤土〜 埴土 (1cm/日 以下)	

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
II 4 つづき	モリネート KM粒	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.	+10〜ノビエ30L 〔但し, 寒冷地 は25Lまで〕 ホタルイ: 始〜 3L ウリカワ: 始〜 4L ミズガヤツリ: 始〜3L	㊥ g/a 300 〜400	(寒冷地): 壤土〜埴土 (2cm/日 以下) (温暖地以西): 砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる.
		温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.				
		暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ミズガヤツリ.				
N-301粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.	+10〜ノビエ25L 〔但し, 寒地は +15〜ノビエ20L, 寒冷地は +15〜ノビエ25L, 暖地は +5〜ノビエ25L〕 ヘラオモダカ: 発 生始〜2Lまで ホタルイ: 始〜 3L	㊥ g/a 300	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	1) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる.
		寒冷地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.				
S-28・S 粒	同 上	温暖地の普 通期	一年生雑草, マ ツバイ.	+10〜ノビエ20L	㊥ g/a 300 〜400	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤の使用 上の注意をまもる.
SMX粒	同 上	温暖地の普 通期, 温暖 地東部の早 期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ミズガヤツ リ.	+10〜ノビエ20L ウリカワ: 発生 盛〜5L ミズガヤツリ: 発生盛〜4L	㊥ g/a 300 〜400	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤の使用 上の注意をまもる.
TH-67粒	同 上	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ヘラオモダ カ, ミズガヤツリ.	+10〜ノビエ25L ウリカワ: 発生 盛〜4L ヘラオモダカ: 発生盛〜4L ミズガヤツリ: 発生盛〜5L	㊥ g/a 300 〜400	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる.
		温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ミズガヤツ リ.				
TH-63 (Na) 粒	同 上	温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.	+8〜ノビエ25L ホタルイ: 発生 始〜5L ウリカワ: 発生 盛〜4L	㊥ g/a 300	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	1) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる. 2) 落水〜浅水処理で効

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
II-4 つづき	つづき			ミズガヤツリ： 発生盛～5L			果が高い。
B-3015・S・BAS 粒	茎葉兼土壌	寒 地	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ヘラオモダカ，ミズガヤツリ，ウリカワ。	+8～ノビエ25L 〔但し，寒地は〕 +7～20L ホタルイ：発生盛～3L ウリカワ：発生盛～3L ヘラオモダカ：発生盛～4L ミズガヤツリ：発生盛～4L	⊕ g/a 300 ～400	壤土～埴土 (2cm/日以下)	シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。
		寒冷地～温暖地の普通期，温暖地東部の早期	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ヘラオモダカ，ミズガヤツリ。				
B-3015・BAS・MCPB 粒	同上	温暖地東部の普通期	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ。	+7～ノビエ25L ホタルイ：発生始～3L	⊕ g/a 300 ～400	砂壤土～埴土 (15cm/日以下)	
		温暖地西部の普通期	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ。	ウリカワ：発生始～3L ミズガヤツリ：発生始～3L			
		暖地の普通期	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ。				
B-3015・S・MCPB 粒	同上	寒 地	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ。	+15～ノビエ30L 〔但し，寒地は〕 25Lまで ホタルイ：発生始～4L ヘラオモダカ：発生始～4L ミズガヤツリ：発生始～4L ウリカワ：発生始～4L	⊕ g/a 300 ～400	壤土～埴土 (2cm/日以下)	1) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 2) 低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はさしひかえる。
		寒冷地，温暖地東部の普通期	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ヘラオモダカ，ミズガヤツリ。				
TH-63C 粒	同上	寒 地	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ。	+8～ノビエ25L 〔但し，寒地は〕 +7～20L， 寒冷地は +10～25L， 温暖地西部以西は +8～30Lまで ホタルイ：始～5L ウリカワ：盛～45L	⊕ g/a 300	壤土～埴土 (2cm/日以下)	シメトリン混合剤と同様の使用上の注意をまもる。
		寒冷地	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ，ウリカワ，ミズガヤツリ。				
		温暖地以西	一年生雑草，マ				

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 4 TH-63 C つづき		の普通期	ツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズ ガヤツリ。	ヘラオモダカ： 始～4 L ミズガヤツリ： 盛～46 L			
CG-102 C 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒地、寒冷 地 温暖地以西 の普通期	一年生雑草、マ ツバイ、ヘラオ モダカ。 一年生雑草、マ ツバイ、	+8～ノビエ25L 〔但し、寒地は +7～20L、 寒冷地は +10～25L〕 ヘラオモダカ： 発生始～2 L	⊕ g/a 300	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる。
KH-195 粒	同 上	温暖地東部 の普通期、 早期 温暖地西部 の普通期	一年生雑草、マ ツバイ、ウリカ ワ、 一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ、	+10～ノビエ20L ホタルイ：発生 始～3 L ウリカワ：3～ 4 L	⊕ g/a 300 ～400	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	低温時の使用は薬害発生 の危険性があるので使用 はさしひかえる。
シメトリン・ MCPB(35) 粒	同 上	寒 地	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ。	+15～ノビエ15L ホタルイ：発生 始～2 L ヘラオモダカ： 発生始～2 L	⊕ g/a 300	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	1) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 2) 低温時の使用は薬害 発生危険性があるので 使用はさしひかえる。
II 5 稚 苗 ・ 適 用 時 期 拡 大 CG-102粒	同 上	寒地、寒冷 地 温暖地東部 の普通期、 早期	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ。 一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ミズガヤツリ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 〔ノビエ25Lまで 但し、寒地は 20Lまで〕 ホタルイ：発生 始～2 L ヘラオモダカ： 発生始～2 L ミズガヤツリ： 発生始～2 L	⊕ g/a 300 ～400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせで使用する。 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる。 3) ホタルイ、ミズガヤ ツリに対してはそれら に有効な前処理剤を使 用する。
TH-63 粒	同 上	寒 地	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ヘラオ モダカ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25	⊕ g/a 300 ～400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせで使用する。 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を

薬 剤 名	処理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 1 5	TH-63 つづき	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオ モダカ, ミズガヤ ツリ.	〔ノビエ25Lまで 但し, 寒地は 20Lまで〕 ホタルイ: 発生 盛〜5L ウリカワ: 発生 盛〜5L ヘラオモダカ: 発生始〜4L ミズガヤツリ: 発生盛〜6L			まもる.
		温暖地の普 通期 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.				
		暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.				
モリネート SM粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処 理した場合 +20〜+30	⊕ g/a 300 〜 400	砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる. 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる.
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオ モダカ, ミズガヤ ツリ.	〔ノビエ35Lまで 但し, 寒地は 25Lまで〕 ホタルイ: 発生 始〜5L ウリカワ: 発生 始〜4L ヘラオモダカ: 発生始〜4L オモダカ: 発生 始〜5L ヒメホタルイ: 10cm以下			
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ, ヒメホタ ルイ.				
		温暖地西部 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.				
		暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.				
モリネート KM粒	同 上	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, オモダ カ, ミズガヤツリ.	田植前後土壌処 理した場合 +18〜+25 (ノビエ30Lまで)	⊕ g/a 300 〜 400	砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる. 3) 暖地早期は4月中旬 以降の移植のものに限 る.
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.	ホタルイ: 発生 始〜3L ウリカワ: 発生 始〜4L			

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 15 (モリネート)	KM つづき	温暖地西部 の普通期	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ。	ミズガヤツリ： 発生始～3L			
		暖地の普通 期	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ。				
		暖地の早期	一年生雑草、マ ツバイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ。				
MCP・ BAS 液	茎 葉 (落 水 散 布)	温暖地以西 の普通期	一年生非イネ科、 ホタルイ、ウリ カワ、ヘラオモ ダカ、ミズガヤ ツリ、コウキヤ ガラ。	MCP散布時期 に準ずる 〔但し、暖地は +15～+26〕 ホタルイ：発生 揃～4L ウリカワ：塊茎 形成前 ヘラオモダカ： 発生揃～5L ミズガヤツリ： 発生揃～8L コウキヤガラ： +30～+40	⊕ ml/a 35～ 50	全 土 壌	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 水稲にはなるべくか からないように散布す る。 3) 入水は処理後 48～ 72 時間経過後行う。
MCP・ BAS 水和	同 上	寒地、温暖 地東部の普 通期	一年生非イネ科、 ホタルイ、ウリ カワ、ヘラオモ ダカ、ミズガヤ ツリ。	MCP処理時期 に準ずる。 一年生非イネ科： 生育期 ホタルイ：発生 揃～4L ウリカワ：塊茎 形成前 ヘラオモダカ： 発生揃～5L ミズガヤツリ： 発生揃～8L	⊕ g/a 67～ 100	砂壤土～ 埴土 (15cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 灌水散布、浅水散布 または落水散布でも可。
		温暖地東部 の普通期	一年生非イネ科、 ウリカワ、ミズ ガヤツリ。				
S-28・S粒	茎 葉 兼 土 壌	寒冷地、温 暖地の普通 期	一年生雑草、マ ツバイ。	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25 (ノビエ20Lまで)	⊕ g/a 300 ～400	埴土～埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。

薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II-5 (うき)	BAS-3510 粒	茎(浅水若しくは落水散布) 全域の普通期, 温暖地東部の早期	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ.	一年生非イネ科: 生育期 ホタルイ } 発生盛へ増殖初期 ウリカワ ヘラオモダカ ミズガヤツリ	⊕ g/a 300 ~ 600	砂壌土へ 埴土 (15cm/日以下)	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) 処理後の灌水は48~72時間経過後行う.
	BAS-3510 水和	茎葉(落水散布) 寒冷地以西の普通期, 温暖地東部の早期	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ, コウキヤガラ.	一年生非イネ科: 生育期 ホタルイ } 発生盛へ増殖初期 ウリカワ ヘラオモダカ ミズガヤツリ コウキヤガラ: +30 前後	⊕ g/a 40 ~ 80	全 土 壌	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) 散布は水稻になるべくかからないようにする. 3) 処理後の灌水は48~72時間経過後に行う.
	BAS-3510 液	茎葉(落水散布) 寒冷地以西の普通期, 温暖地東部の早期	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ.	一年生非イネ科: 生育期 ホタルイ } 発生盛へ増殖初期 ウリカワ ミズガヤツリ	⊕ ml/a 40 ~ 80	全 土 壌	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) 散布は水稻になるべくかからないようにする. 3) 処理後の灌水は48~72時間経過後行う.
	(X-52)→ AM粒	茎葉兼土壌 温暖地以西の普通期, 温暖地西部および暖地の早期	一年生広葉雑草, ウリカワ.	田植前後土壌処理した場合 +15~ウリカワ 4.5 L	⊕ g/a 300 ~ 400	埴土へ埴土 (15cm/日以下) [温暖地東部の普通期では砂壌土を含む.]	1) ウリカワ多発田を対象とする. 2) ウリカワにも有効な前処理剤との組み合わせで使用する.
	(X-52)→ S-28・AM 粒	同上	一年生雑草, マツバイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理した場合 +20 ~ +25 (ノビエ15Lまで) ヘラオモダカ: 発生始~2L	⊕ g/a 300	埴土へ埴土 (2cm/日以下)	1) 前処理剤と組み合わせで使用する. 2) 低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はひかえる.
	HOK-05A 粒	同上	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理した場合 +20 ~ +25	⊕ g/a 300	埴土へ埴土 (2cm/日以下)	1) 前処理剤と組み合わせで使用する. 2) 低温時の使用は薬害

薬 剤 名	処理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ ー 5 (きゅうじゅつ)	HOK-05A つづき			(ノビエ15Lまで) ホタルイ ヘラオモダカ 発生始～2L			の危険性があるので使用はひかえる。
HOK-05 B粒	茎 葉 兼 土 壌	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ。	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25	⊕ g/a 300 ～ 400	壤土～埴土 (2cm/日 以下) 砂 埴 土 (1cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 3) 低温時の使用は薬害 の危険性があるので使 用はひかえる。
		温暖地東部 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ, ヘラオモダカ。	[ノビエ20Lまで 但し, 暖地普 通期は +16～+25]			
		温暖地西部 以西の普通 期, 暖地の 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ。	ホタルイ: 発生 始～2L ヘラオモダカ: 発生始～5L ウリカワ: 発生 始～5L			
HOK-06 粒	同 上	寒冷地	一年生非イネ科 雑草, ホタルイ, オモダカ。	+30～+35 一年生非イネ科: 生育期	⊕ g/a 300 ～ 400	砂埴土～ 埴土 (2cm/日 以下)	前処理剤との組み合わせ て使用する。
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生非イネ科 雑草, ウリカワ。	ホタルイ: 発生 揃～4L ウリカワ: 発生 盛～6L オモダカ: 発生 盛～6L			
SMX粒	同 上	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 (ノビエ2Lまで)	⊕ g/a 300	砂埴土～ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる。
		温暖地の普 通期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ, ミズガヤツリ。	ホタルイ: 発生 盛～3L ウリカワ: 発生 盛～5L ミズガヤツリ: 発生盛～5L			
シメトリン MCPB (25)粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ。	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25 (ノビエ15Lまで)	⊕ g/a 300	埴土～埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ ー 5 (き)	シメトリン MCPB(25) つづき			ホタルイ ヘラオモダカ 発生始～2L			3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる。
	シメトリン MCPB(35) 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ。	Ⓔ g/a 300	砂壌土へ 埴土 (2cm/日 以下) 但し, 寒 地は砂壌 土を除く	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる。
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ。 〔ノビエ2Lまで 但し, 寒地は 15Lまで〕 ホタルイ: 発生 始～2L ウリカワ: 発生 始～2L ヘラオモダカ: 発生始～2L	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25 〔ノビエ2Lまで 但し, 寒地は 15Lまで〕 ホタルイ: 発生 始～2L ウリカワ: 発生 始～2L ヘラオモダカ: 発生始～2L			
	TH-67 粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ。	Ⓔ g/a 300 ～ 400	砂壌土へ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる。 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる。
			寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ウ リカワ, ミズガヤ ツリ。			
			温暖地東部 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ。			
			温暖地西部 以西の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ, ミズガヤツリ。			
			暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ。			
TH-63 (Na) 粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオ モダカ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 ノビエ25Lまで 但し, 寒地は 20Lまで ホタルイ: 発生 盛～5L ウリカワ: 発生 盛～5L ヘラオモダカ: 発生始～4L ミズガヤツリ: 発生盛～5L	Ⓔ g/a 300 ～ 400	砂壌土へ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる。
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオ モダカ, ミズガヤ ツリ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 ノビエ25Lまで 但し, 寒地は 20Lまで ホタルイ: 発生 盛～5L ウリカワ: 発生 盛～5L			

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
II 5 (つづき)	TH-63 (Na) つづき	温暖地の普通 期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.	ヘラオモダカ: 発生始〜2L ミズガヤツリ: 発生盛〜6L				
		暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.					
B-3015・ S・MCPB 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処 理した場合 +20〜+30	⊕ g/a 300 〜400	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる. 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる.	
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオ モダカ, ミズガヤ ツリ.	〔ノビエ30Lまで 但し, 寒地は 25Lまで〕 ホタルイ: 発生 始〜4L ウリカワ: 発生 始〜4L				
		温暖地東部 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.	ヘラオモダカ: 発生始〜4L ミズガヤツリ: 発生始〜4L				
III 1 灌水直播	B-3015・ K粒	土 壌	温暖地以西	一年生雑草, マ ツバイ.	播種後7日〜15 日 〔イネ15L以降〕 〔ノビエ20Lまで〕	⊕ g/a 300 〜400	埴土〜埴土 (1cm/日 以下) 火山灰土壌 (3cm/日 以下)	1) 芽干し後に使用する. 2) コナギ多発田はさけ る. 3) 暖地は播種期6月上 旬〜中旬栽培に限る.
III 2 乾 田 直 播	CG-102粒	茎 葉 兼 土 壌	温暖地	一年生雑草, マ ツバイ.	入水後8日〜12 日 (ノビエ25Lまで)	⊕ g/a 300 〜400	砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) 水持ちの安定した後 に使用する. 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる.
	モリネート SM粒	同 上	温暖地以西	一年生雑草, マ ツバイ.	入水後7日〜15 日 (ノビエ35Lまで)	⊕ g/a 300 〜400	埴土〜埴土 (3cm/日 以下)	1) 水持ちの安定した後 に使用する. 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる.
	BAS-3510 液	茎 葉	温暖地以西	ミズガヤツリ.	入水前 ミズガヤツリ発 生揃後	⊕ ml/a 40〜 60	全 土 壌	DCPA剤と7日以内の 近接散布はさける.

薬 剤 名		処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
Ⅲ 2 (つづき)	BAS-3510 つづき		寒冷地南部		入水後 ミズギャツリ 2～7L	60 $\frac{ml}{a}$ ～ 120	砂壤土～ 埴土 (15cm/日 以下)	
	MON-39 液	茎 葉	温暖地以西	一年生雑草	耕起前 30日～40日 〔雑草20～30cm 以下〕	⊕ $\frac{ml}{a}$ 25～ 50	全 土 壤	
	B-3015P	土 壤	温暖地西部 以西	一年生雑草	播種直後	⊕ $\frac{g}{a}$ 400 ～600	埴土～埴土	
Ⅳ 畦 畔	MON-39 液	茎 葉	全 域	全 草 種	雑草生育期	⊕ $\frac{ml}{a}$ 25～ 75	全 土 壤	1) 川面散布はさける。 2) 稲体にかからないよ うにする。 3) 流水による薬害のお それをなくする。 4) 年1回程度の使用に とどめる。
	バラコート +起泡剤	茎 葉	寒冷地、温 暖地	全 草 種	雑草生育期	⊕ $\frac{ml}{a}$ 30	全 土 壤	1) 川面散布はさける。 2) 稲体にかからないよ うにする。 3) 流水による薬害のお それをなくする。 4) 散布水量5～10 $\frac{l}{a}$ とする。
V 耕 起 前	MON-39 液	茎 葉	寒冷地以西	一年生雑草	耕起前 20日～40日	⊕ $\frac{ml}{a}$ 25～ 75	全 土 壤	1) 稀釈水量はできるだ け少ない量で茎葉によ く付着するように散布 する。 2) 周辺の作物に飛散し ないように注意する。

年間購読料・送料の改訂について

昭和51年1月25日より、郵便料金が大幅に値上げされたため、昭和51年1月号より、下記の通り改訂させていただきましたので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

記

年間購読料(1～12号): 4,000円(送料も含む), 1部売: 250円+郵送料140円。

昭和50年度畑作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和50年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会は、昭和50年12月17～18日の2日間、東京農林年金会館（東京）において開催された。その結果の概要をここに紹介する。

昭和50年度に供試された畑作関係除草剤は、定性スクリーニングに4薬剤、作用特性試験として大豆8薬剤、小豆5薬剤、菜豆4薬剤、とうもろこし1薬剤、落花生1薬剤、てん菜1薬剤、その他比較試験2薬剤が実施された。適用性試験は計36薬剤が供試され、その試験結果に基づく判定結果は第1表のとおりである。さらに「実用化」「実・継」と判定された薬剤の使用基準は第2表のとおりである。

なお、定性スクリーニング、作用特性試験に供試した薬剤名は、次のとおりである。

I. 供試薬剤

<定性スクリーニング>

0-330乳, BAS-3510液, SL-501

水和, SL-502水和.

<作用特性試験>

1) 大豆

BAS-3510水和, NTN-87水和, NP-46乳, TH-68乳, SSH-42乳, SSH-41水和, DAC-893水和, S-28乳.

2) 小豆

S-28乳, NTN-87水和, SSH-42水和, SSH-41水和, DAC-893水和.

3) 菜豆

S-28乳, SL-55水和, NTN-87水和, DAC-893水和.

4) とうもろこし

SSH-41水和.

5) 落花生

S-28乳.

6) てんさい

S-28乳.

7) 比較試験

NP-40乳, NP-42乳.

II. 対象作物・薬剤別判定結果

第1表 昭和50年度畑作関係除草剤実用化判定表

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
1) 大 豆	SKH-01水和	B-3015・P粒 S-28乳, トリフルラリン + リニュロン	ANK-553乳 NP-46乳 NP-40乳 SSH-36液	SL-55水和	

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
(つづき)			TH-68乳 トリフルラリン+DNBP		
2) 小 豆		ANK-553乳 SKH-01水和	DAC-893水和 プロメトリン・アラク ロール乳 SSH-36液 トリフルラリン+DNBP	SL-55水和	
3) 菜 豆	ANK-553乳		BAS-3510水和 プロメトリン・アラク ロール乳 SSH-36液 トリフルラリン+DNBP トリフルラリン+リニエロン		SKH-01水和
4) 落 花 生	NTN-80水和	ANK-553乳 B-3015 P粒 NK-049・P水和 プロメトリン・アラク ロール乳 SD-11831 微粒			
5) 甘 し ょ		B-3015・P粒 NTN-80水和	NP-40乳 NP-42乳 NK-049水和		
6) とうもろこし	アトラジンFW 500乳		SSH-41水和		
7) てん菜直播			BJL-119水和 SL-38+PAC		
8) てん菜移植	HSW-4901水和	U-67水和	BJL-119水和 SL-38+PAC		
9) こんにゃく	バラコート液	MCC粒 バラコート液+トリフ ルラリン乳			
10) さとうきび		NTN-70水和	DPX-3674水和 VEL-26水和		

Ⅲ. 実用化判定薬剤使用基準

第2表 昭和50年度畑作関係実用化除草剤使用基準

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	SKH-01	水和	実	土 壌	播種後 ～出芽前	⊕ g/a 15～ 20	全土壌	寒 地	イネ科, ツユク サに効果が劣る。
	B-3015-P	粒	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 400 ～ 600	火山灰土	寒地を除 く全域	
	S-28	乳	実・ 継	土 壌	出芽前	⊕ g/a 20 ～ 40	全土壌	寒 地	
	トリフルラリン + リニユロン	乳 液	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 20+15	火山灰土	寒冷地	
2) 小 豆	ANK-553	乳	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 20 ～ 30	全土壌	寒 地	
	SKH-01	水和	実・ 継	土 壌	播種後 ～出芽前	⊕ g/a 10～ 20	全土壌	寒 地	・イネ科, ツユ クサに効果が 劣る。
3) 菜 豆	ANK-553	乳	実	土 壌	播種後	⊕ g/a 20～ 30	全土壌	寒 地	
4) 落 花 生	NTN-80	水和	実	土 壌	播種後	⊕ g/a 30～ 500	全土壌	温暖地 以西	
	ANK-553	乳	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 20～ 30	全土壌	温暖地 以西	
	B-3015-P	粒	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 400 ～ 600	全土壌	温暖地 以西	
	NK-049-P	水和	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 40～ 60	全土壌	温暖地 以西	
	プロメトリン ・フラクロール	乳	実	土 壌	マルチ前	⊕ g/a 20～30	全土壌	寒冷地	

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
落花生 (つづき)	プロメトリン・ アラクロール (つづき)	乳	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 20～ 30	全土壌 〔砂土、 砂礫土 を除く〕	温暖地 以西	
	S D - 11831	微粒	実・ 継	土 壌	播種後	⊕ g/a 400 ～ 500	全土壌	温暖地 以西	
5) 甘 し ょ	B-3015・P	粒	実・ 継	土 壌	挿苗後	⊕ g/a 400 ～ 600	全土壌	暖 地	
	NTN - 80	水和	実・ 継	土 壌	挿苗後	⊕ g/a 30～ 50	火山灰土	温暖地 以西	
6) とうもろこし	アトラジン FW 500	乳	実	土壌へ 茎葉	播種後～雑 草 2 ～ 3 葉期	⊕ g/a 10～ 20	全土壌	寒地～温 暖地	・イネ科雑草に はやや効果が 劣る。 ・25Lまで使 用可能、5L 以下の場合は 散布むらに注 意。
7) てん菜移植	HSW - 4901	水和	実	茎 葉	移植活着後 雑草発生前	⊕ g/a 20～ 30	全土壌	寒 地	・非イオン系 展着剤加用。
	U - 67	水和	実・ 継	土 壌	移植後 雑草発生前	⊕ g/a 25～ 30	全土壌	寒 地	
8) こんにゃく	バラコート	液	実	茎 葉	生育期	⊕ g/a 20～ 30	全土壌	寒冷地、 温暖地	・2年生以上。 ・葉面への散布 はさける。
	MCC	粒	実・ 継	土 壌	植付後、培 土後	⊕ g/a 400 ～ 600	全土壌	寒冷地、 温暖地	
	バラコート+ト リフルラリン	液 乳	実・ 継	茎葉兼土 壌	萌芽前	⊙ 20～30 + ⊕ 20～30 g/a	全土壌	寒冷地、 温暖地	・培土後できる だけ早めに。
9) さとうきび	NTN - 70	水和	実・ 継	茎 葉	植付直後～ 雑草 2L	土壌:⊕ 30 茎葉:⊕ 10～20 g/a	全土壌	暖 地	

新登録除草剤一覧表

農林省農蚕園芸局植物防疫課
昭和50年11月1日～12月31日

種類名	商品名	有効成分の種類及び含有量	剤型	適作物 (場所)	適用 雑草	適用 地帯	適用 土壌	使用 時期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
ナプロバ ミド除草 剤	クサレス 水和剤	2-(α -ナフ トキン)-N, N-ジエチル プロピオンア ミド 50%	水和剤	はくさ い, だ いこん	畑作1 年生雑 草			播種後 (雑草発 生前)	400～ 600g (70～ 100 ℓ)	散布(全 面土壌処 理)1回 以内	日本農薬 (株) 中外製薬 (株)
				キャベ ツ, ト マト [露地移 植栽培]				定植活 着後 (雑草発 生前)			
				日本芝 [コウラ イ芝, ノシバ]	ヒメシ バ			雑草発 生前	600g (300 ℓ)	散布(全 面土壌処 理)	
エースフ ェノン除 草剤	キャスタ イト乳剤	4-ターシャリ -ブチル-2, 6-ジメチル -3,5-ジニ トロアセトフ ェノン 20%	乳剤	すぎ, まつ, ひのき [播きつ け床, 床替床]	畑作1 年生雑 草			播種覆 土後又 は床替 活着後	1000～ 2000cc (1-2cc /㎡) 10ア- ル当り 散布液 量100 ～200 ℓ (100～ 200cc /㎡)	低圧噴霧 器等で苗 床土壌面 全面に均 一に散布 する。	大日本イ ンキ化学 工業(株)
ジメタメ トリン・ ビベロホ ス除草剤	アピロサ ン粒剤	2-メチルチオ -4-エチル アミノ-6- (1,2-ジメ チルプロピル アミノ)-S -トリアジン (ジメタメト リン) 11% S-(2-メチ ル-1-ビベ リジル-カル ボニルメチル) -0,0-ジ- n-プロピル	粒剤	水稲 [普通移 植]	ノビエ, その他 水田1 年生雑 草及び マツバ イ, ヘ ラオモ ダカ (寒地, 寒冷地)	全域の 普通期 及び早 期栽培 地帯	砂壤土 ～埴土 [減水深 3cm/日 以下]	田植後 7～15 日 (ノビエ の2.5薬 期まで 但し北 海道は 2薬期 まで)	3～ 4Kg	湛水散布 茎葉兼土 壌処理	武田薬品 工業(株)
						九州・ 南四国 の暖地 を除く 全土壌		田植後 15～25 日(ノ ビエの 2.5薬期			

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及び含有量	剤 型	適 用 作 物 (場所)	適 用 雑 草	適 用 地 帯	適 用 土 壌	使 用 時 期	使用量 (10 a 当り)	使用方法	登録会社
(つづき)		ジチオホスフ ェート(ビベ ロホス) 44%				の普通 期栽培 地帯		まで、 但し北 海道は 2葉期 まで) 田植前 後の初 期土壌 処理剤 との体 系で使 用			
						全域の 普通期 栽培地 帯及び 九州・ 南四国 の暖地 の早期 栽培地 帯。	壤土～ 埴土 [減水深 2cm/日 以下]	田植後 10～15 日(ノビ エの25 葉期ま で、但 し北海 道は2 葉期ま で。)	3 Kg		
						全域の 普通期 栽培地 帯	砂壤土 ～埴土 [減水深 2cm/日 以下]	田植後 15～25 日(ノビ エの25 葉期ま で、但 し北海 道は2 葉期ま で) 田植前 後の初 期土壌 処理剤 との体 系で使 用	3～ 4 Kg		
ジメタメ トリン・ ビベロホ ス・ベン タゾン除 草剤	ワイダー 粒剤	2-メチルチオー 4-エチルアミ ノ-6-(1,2 -ジメチルプロ ピルアミノ)- S-トリアジン 11%	粒 剤	水 稲 [普通 移植]	ノビエ、 その他 水田1 年生雑 草及び マツバ イ、ホ	全域の 普通期 及び早 期栽培 地帯	砂壤土 ～埴土 [減水深 2cm/日 以下]	田植後 7～15 日(ノビ エの25 葉期ま で、但 し北海	3～ 4 Kg	湛水散布 茎葉兼土 壌処理	武田薬品 工業(株)

種類名	商品名	有効成分の種類 及び含有量	剤型	適用 作物 (場所)	適用 雑草	適用 地帯	適用 土壌	使用 時期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
(つづき)		S-(2-メチル -1-ビペリジ ル-カルボニル メチル)-0,0 -ジ-n-プロ ピルジチオホス フェート 44% 3-イソプロピル -2,1,3 -ベン ゾチアシアジノ ン-(4)-2,2 - ジオキンド 10%			タルイ、 ウリカ ワ、ミ ズガヤ ツリ、 ヘラオ モダカ (寒地、 寒冷地)	九州・ 南四国 の暖地 を除く 全域の 普通期 栽培地 帯及び 関東・ 東山・ 東海の 早期栽 培地帯		道は2 葉期ま で)	田植後 15~25 日(ノビ エの25 葉期ま で、但 し北海 道は2 葉期ま で) [田植前 後の初 期土壌 処理剤 との体 系で使 用]		
				水 稲 [稚苗 移植]		全域の 普通期 及び早 期栽培 地帯	壤土へ 植土 [減水深 2cm/ 日以下]	田植後 10~15 日(ノビ エの25 葉期ま で、但 し北海 道は2 葉期ま で)	3 Kg		
						全域の 普通期 栽培及 び九州 を除く 地域の 早期栽 培地帯	砂壤土 へ植土 [減水深 2cm/ 日以下]	田植後 15~25 日(ノビ エの25 葉期ま で、但 し北海 道は2 葉期ま で) [田植前 後の初 期土壌 処理剤 との体 系で使 用]	3 ~ 4 Kg		

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤 型	適 用 物 作 (場所)	適 用 雄 草	適 用 地 帯	適 用 土 壌	使 用 時 期	使用量 (10 a 当り)	使用方法	登録会社
モリネー ト・チオ クロルメ チル除草 剤	オードラ ム K 粒剤	S-エチルヘキサ ヒドロ-1H- アゼビン-1- カーボチオエー ト 60% N-(3-クロル -4-クロルジ フルオルメチル チオフェニル) -N,N'-ジメチ ル尿素 2.5%	粒 剤	普通移 植水稻	ノビエ, その他 水田 1 年生雑 草及び マツバ イ	北海道 を除く 全域の 普通期 及び早 期栽培 地帯	砂壤土 ～埴土 〔減水深 2cm/ 日以下〕	植代後 移植前 1～3 日又は 移植後 2～6 日	3～ 4 Kg	湛水散布 〔土壌処 理〕	日本特殊 農薬製造 (株) 八洲化学 工業(株) 三笠化学 工業(株)
						全域の 普通期 及び早 期栽培 地帯		移植後 7～15 日(寒 地は 7 ～20日) ノビエ の2.5葉 期まで		湛水散布 〔茎葉兼 土壌処 理〕	
				稚苗移 植水稻	ノビエ, その他 水田 1 年生雑 草及び マツバ イ	関東以 西の普 通期裁 培地帯		植代後 移植前 2～3 日又は 移植後 3～6 日	3 Kg	湛水散布 〔土壌処 理〕	
						九州・ 南四国 の早期 栽培地 帯		移植後 3～7 日			
						北海道 を除く 全域の 普通期 栽培地 帯及び 関東・ 東山・ 東海の 早期裁 培地帯		移植後 5～15 日(寒 地は 7 ～18日) ノビエ の2.5葉 期まで	3～ 4 Kg	湛水散布 〔茎葉兼 土壌処 理〕	
				ホタル イ	東北, 北陸地 域			移植後 5～18 日ホタ ルイの 発生始 から2 葉期ま で	3～ 4 Kg		

種類名	商品名	有効成分の種類 及び含有量	剤型	適用 物 (場所)	適用 雑 草	適用 地 帯	適用 土 壌	使用 時 期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
(つづき)				湛水直 播水稻	ノビエ, その他 水田1 年生雑 草及び マツバ イ	中国, 四国以 西の地 域	壤土へ 培土 [減水深 1cm/ 日以下]	播種後 7~15 日イネ の15葉 期以降 ノビエ の2葉 期まで	3~ 4kg	湛水散布 [茎葉兼 土壌処 理]	

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

各国の雑草の呼称名を学名と対照した雑草名鑑。学名に対し日本名、英名、ハワイ名、インドネシア名、中国名、台湾名、ソビエト名、韓国名を対照している。

A4版 47ページ
定価 2,000円(送料別)

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

ノビエからホタルイまで

新発売

水田初期除草剤

ショウロンM粒剤

特長

- ☑ホタルイに卓効
- ☑イネに安全
- ☑適用地帯が広い
- ☑高い安全性

ショウロンM普及会

クミアイ化学工業株式会社 昭和電工株式会社
三井東圧化学株式会社 三井東圧農薬株式会社

新除草・調節剤

キャストイト乳剤

エースフェノン除草剤

(取扱メーカー) 大日本インキ化学工業株式会社

対象作物：森林苗床（すぎ、まつ、ひのきの播きつけ床および床替床）。

性状・作用特性：本剤は、4-ターシャリーブチル-2,6-ジメチル-3,5-ジニトロアセトフェノン（一般名：エースフェノン）を有効成分とする除草剤で、乳剤はこれを20%含有する。

雑草発生前の土壌処理により、禾本科および広葉の一年生雑草を防除する。茎葉処理効果はないので、床替直後の苗床でも全面土壌処理が可能である一方、すでに発生を始めた雑草に対しては効果がある。一年生雑草間では、はっきりした選択性はみられないが、タデ類に対してはやや効果が劣る。残効性は中程度であり、土壌中の移行性は極小である。温度による影響は、比較的小さい方である。

毒性：通常の使用方法では、毒性は低い。急性経口毒性LD₅₀は、ラット7,300mg/kg、マウス4,900mg/kgである。魚毒性は48時間TLm100ppm以上である。

使用方法：雑草発生前に10アール当り製品1～2ℓを100～200ℓの水にうすめて、低圧噴霧器などで苗床土壌全面に均一に散布する。

使用上の注意：①茎葉処理効果がないので、必ず雑草発生前に使用する。雑草の生えているときは、手取除草をしてから散布すること。②覆土・砕土はできるだけ細かく、整地はできるだけいいにすること。③タデ類などの優占

する圃場での使用は効果が劣るので、使用をさけること。

オードラムK粒剤

モリネート・チオクロルメチル除草剤

(取扱メーカー) 八洲化学工業株式会社
三笠化学工業株式会社
日本特殊農薬製造株式会社

対象作物：普通移植水稲・稚苗移植水稲・湛水直播水稲。

性状・作用特性：本剤はS-エチルヘキサニドロ-1H-アゼピン-1-カーボチオエート（モリネート）6%、N（3-クロル-4-クロルジフルオルメチルチオフェニル）N'-ジメチル尿素（チオクロルメチル，KUE-2079A）2.5%を有効成分とする除草剤である。

本剤は、ノビエをはじめ各種水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリにも卓効がある。殺草スペクトラムが広い上に、散布適期幅が広く、田植え前から田植え後15日頃までの幅広い処理で安定した高い効果がある。さらに、湛水直播の生育初期、稚苗、成苗のどの時期における処理でも安全性の高いこと、九州・四国・中国などではともすれば高温による除草剤の障害が懸念される地帯での使用でも、安全性の高いことが確認されている。水稲に対する安全性とともに、防除困難なホタルイ・ミズガヤツリ等の多年生雑草に対して、本剤は発生始期から2,3葉期頃までに処理でき、適確な防除が可能であり、しかも残効性に優れている。さらに、湛水直播や稚苗移植水稲の生育初期に間

新除草・調節剤

題となる表層はく離を防止し、うき草・葉類にも有効である。

本剤の作用特性は、モリネートは幼植物の幼芽部・根部から吸収されて、雑草の生長作用を阻害して枯死に至らしめる。チオクロルメチルは、同様に根部・幼芽部から吸収されて、雑草の光合成を阻害することにより枯死させると考えられている。この生育抑制型の薬剤と光合成阻害型の薬剤の作用性があいまって、強力な除草効果を発揮する。

毒性：普通物であり、魚毒性はB類である。急性経口毒性LD₅₀は、ラットでモリネート：720mg/kg、チオクロルメチル：770mg/kg、マウスでモリネート：795mg/kg、チオクロルメチル：430mg/kgである。魚毒性は、48

時間TLMは、モリネート：30ppm、チオクロルメチル：3.5ppmである。

使用上の注意：①水深は少なくとも処理後4～5日間は3cm以上に保ち、田面を露出させたり、水を切らさないようにし、かけ流しはさける。②砂質土や極端な漏水田での使用はさける。③軟弱苗や深水の水田での使用をさける。④コナギに対しては3葉期までに使用する。⑤湛水直播水稲では水稲が1.5葉期以後ノビエの2葉期までに使用する。⑥魚貝類に対して影響を及ぼす恐れがあるので、(イ)養魚池、養魚田に流入するおそれのあるところでは使用をさける。(ロ)処理後4～5日は排水しない。(ハ)溢流水が出ないように注意する。(ニ)残葉、空袋等を水に流さないこと。

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用 雑草名	使用時期	適用土壌	10 a 当 り使用量	使用方法	適用地帯
普通移植水稲	ノビエその他水田一年生雑草及びマツバイ	植代後移植前1～3日又は移植後2～6日	砂礫土～埴土 〔減水深2cm ／日以下〕	3～4Kg	湛水散布 （土壌処理）	北海道を除く全域の普通期及び早期栽培地帯
		移植後7～15日（寒地は7～20日）ノビエの2.5葉期まで			湛水散布 〔茎葉兼土壌 処理〕	全域の普通期及び早期栽培地帯
稚苗移植水稲	ノビエその他水田一年生雑草及びマツバイ	植代後移植前2～3日又は移植後3～6日		3Kg	湛水散布 （土壌処理）	関東以西の普通期栽培地帯
		移植後3～7日				九州、南四国の早期栽培地帯
		移植後5～15日（寒地は7～18日）ノビエの2.5葉期まで		3～4Kg	湛水散布 〔茎葉兼土壌 処理〕	北海道を除く全域の普通期栽培地帯及び関東、東山、東海の早期栽培地帯
	ホタルイ	移植後5～18日ホタルイの発生始から2葉期まで		3～4Kg		東北、北陸地域
湛水直播水稲	ノビエその他水田一年生雑草及びマツバイ	播種後7～15日イネの1.5葉期以降ノビエの2葉期まで	埴土～埴土 〔減水深1cm ／日以下〕	3～4Kg	湛水散布 〔茎葉兼土壌 処理〕	中国、四国以西の地域

植調協会だより

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・昭和50年度りんご関係除草剤・生育調節剤
試験成績検討会

日 時：昭和51年2月26日(金) 10～17時

場 所：岩手県職員共済会館会議室(2F)

盛岡市大沢川原2-4-20

TEL 0196-23-6251

- ・昭和49, 50年度牧野草地関係除草剤・生
育調節剤試験成績検討会

日 時：昭和51年3月4日(木) 10～15時

場 所：草地試験場第2会議室

栃木県那須郡西那須野町768

TEL 02873-6-0111

- ・昭和51年度農薬(作物・土壌)残留量分析
委員会

編 集 後 記

立春……おだやかな小春日和がつづいたかと思
うと、その翌日は寒風が吹きすさぶ。

雑草防除の面からみれば、冬雑草は問題とな
らないので、農家の人々もこれに対する感心は
うすいようだ。しかし、多年生雑草は、この休
眠からさめる時点で、化学的防除の効果を最大
限に発揮できるので、多年生雑草の化学的防除
にとりこんで欲しい。

化学的雑草防除に関する研究は、今後とも大
いに進展するものと思われるが、それが普及に
移され、実際に農家の圃場で活用されなければ、
折角の研究成果も生かされない。そこで、化学
的雑草防除の普及に従事する方々に、積極的な
協力を仰ぐ次第である。

年月日(期)	会議の名称 (委員会回数)	作物 残留	土 壌 残留	会 場
S.51. 420 (木) 21 (金)	農薬残留分析 委員会 (第1回)	第1回 通算 44 回		日本都市センタ ー本館第7会議 室 TEL 265-8211
S.51. 525 (木) 26 (金)	同 上 (第2回)	第2回 通算 45 回	第1回 通算 27 回	同 上
S.51. 610 (木) 11 (金)	農薬(作物・ 土壌)残留分 析委員会 (合同)			
S.51. 720 (木) 21 (金)	農薬残留分析 委員会 (第3回)	第3回 通算 46 回	第2回 通算 28 回	日本都市センタ ー本館第7会議 室 TEL 265-8211
S.51. 824 (木) 25 (金)	同 上 (第4回)	第4回 通算 47 回		同 上
S.51. 921 (木) 22 (金)	同 上 (第5回)	第5回 通算 48 回	第3回 通算 29 回	同 上
S.51. 1027 (木) 28 (金)	同 上 (第6回)	第6回 通算 49 回		同 上
S.51. 1125 (木) 26 (金)	同 上 (第7回)	第7回 通算 50 回	第4回 通算 30 回	同 上
S.51. 1216 (木) 17 (金)	同 上 (第8回)	第8回 通算 51 回		同 上

上記の日程で運営する予定ですが、審査件数
の増減により短縮または延長することもあります。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和51年2月発行

植調第9巻第11号

¥250(送料140)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-8 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

種子から収穫まで護るホクコー農薬

デュボン
種子消毒剤 **ベンレート** 水和剤20

殺虫剤 **オルトラン** 粒剤 水和剤

殺菌剤 **カスラフサイド** 粉剤 水和剤

除草剤 **グラキール** 粒剤 1.5/2.5



お求めは農協へどうぞ

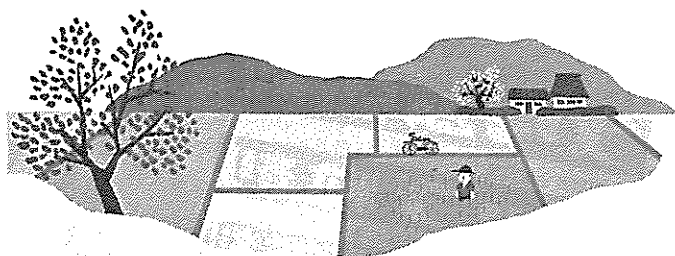
開発研究所(厚木市)



北興化学工業株式会社
〒103 東京都中央区日本橋本石町4-2

工場：北海道工場・新潟工場・岡山工場
支店：札幌・東京・名古屋・大阪・福岡

新発売 武田の水田除草剤



●水田の中期除草に

アピロサン 粒剤

- 除草効果がすぐれた新しい中期除草剤です。
- 抑草期間が長く、長期間にわたって雑草の発生をおさえます。
- ノビエ、コナギ、カヤツリグサ、などの一年生イネ科雑草、広葉雑草に卓効を示します。
- 多年性雑草のマツバイ、ヘラオモダカにもすぐれた殺草効果があります。

●水田雑草の総合防除に

ワイダー 粒剤

- ほとんどの一年生雑草と多年生雑草のマツバイおよび最近全国的に多発しているミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ホタルイなどにも優れた殺草効果を示す水田の総合除草剤です。

●稲のもんがれ病に

バリダシン

●稲の害虫に

パダン

ワンタッチでOK ロンスターシステム!

* 容器のまま散布できる水田除草剤 [®]

ロンスター[®] 乳剤

★ ロンスターシステムの三大特長 ★

- ① ワンタッチで簡単に散布できます
- ② 成苗はもちろん、稚苗移植の除草にも最適です

- ③ 田植前から安定した高い除草効果が持続します

■ 大型機械散布もできます



—— ロンスター普及会 ——

日産化学・北興化学

事務局 日産化学工業(株)農薬事業部内
東京都千代田区神田錦町3-7-1

原体製造元: ローヌ・プーラン [®]

除草剤の強カメンバー

* 水稻直播・陸稲・甘藷・レタス・芝に *

スラム乳剤

* 水田除草全般に *

ニップ粒剤

* ウリカワと一般水田雑草防除に *

モゲサント粒剤

* 畑作全般・水稻直播・林業苗畑に *

ニップ乳剤

* 畑作の省力除草に *

畑作用ニップ粒剤

製造元 **東京有機化学工業株式会社**
農薬・イオン交換樹脂・化学品の総合メーカー

発売元 **三洋貿易株式会社**
〒101 東京都千代田区神田錦町2の11

● お求めは農協又は特約店でどうぞ… (誌名ご記入の上、発売元へご請求くだされば説明書送呈)

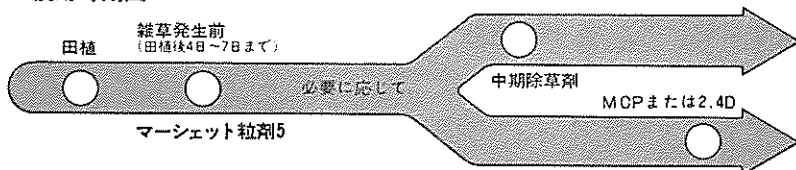


あの人も、ノビエでお困りでしたね。

もう腰を曲げ曲げ、ヒエ抜きに苦勞することはありません。マーシエツト粒剤5は、雑草発生前の初期散布で、みごとノビエを一掃。また、ホタルイやミズガヤツリにも効果的。「まだ」の方へ、ぜひおすすめください。

雑草発生前、早めの散布が効果的です

※使用時期図



※ウリカワ、オモダカ、ヒルムシロなどの多発田では、より確実に防除するため、マーシエツト粒剤5の処理後、適期にこれらの草に効く専用防除剤の処理をおすすめします。

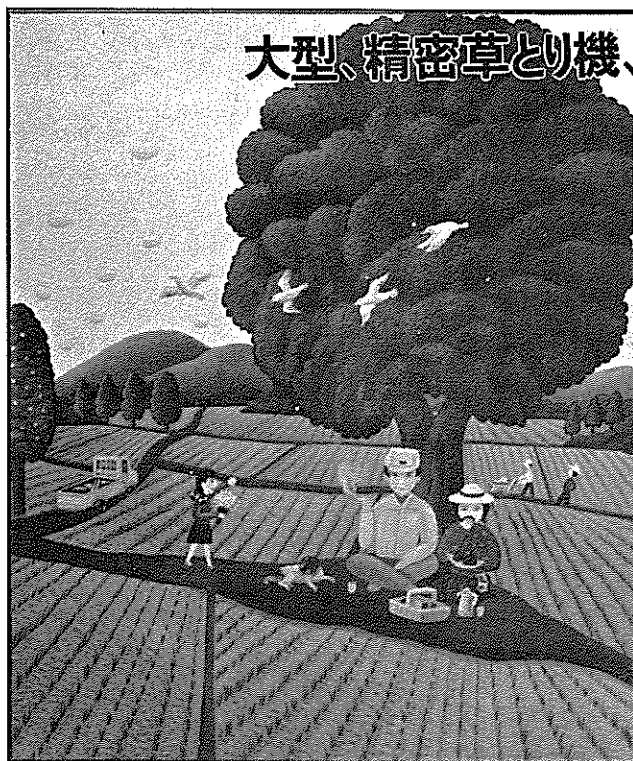
水田初期除草剤の決定版

マーシエツト粒剤5

※米国モンサント社商標

マーシエツト普及会
三 共(株)・日本農薬(株)・北興化学工業(株)

事務局 日本モンサント株式会社
〒100 東京都千代田区霞が関3-8-1虎の門三井ビル



大型、精密草とり機、サターン。

水田の草とりは、サターンにおまかせください。安全でききめの確かなサターン剤は、いわば性能のすぐれた草とり機。やっかいな除草作業から農家の手を解放しました。くらしにゆとりを届けて6年目、サターンは、いまいちばん多く使われている除草剤です。

サターンS粒剤

サターン粒剤
サターン乳剤
サターンノアロ乳剤
サターンM粒剤



●お申込みは皆様の農協へ

自然に学び自然を守る



クミアイ化学

東京都台東区池之端1-4-26

期待に応えて新登場!!

多年生・一年生
雑草の同時防除に

ラメット® SIM 粒剤

- ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカなど、最近急激に問題化している多年生雑草をも防除できます。
- ノビエの3～4葉期処理でも卓効があります。散布適期幅が広いので、労力配分が容易で大変省力的です。



八洲化学工業株式会社

東京都中央区日本橋本町1-6(大和ビル)



三笠化学工業株式会社

福岡市中央区天神4-9-1